三春町告示第91号

平成24年9月三春町議会定例会を、次のとおり招集する。

平成24年8月20日

三春町長 鈴木 義 孝

- 1 日 時 平成24年9月6日（木）午前10時
- 2 場 所 三春町議会議場

平成24年9月6日、三春町議会9月定例会を三春町議会議場に招集した。

1 応招議員・不応招議員

1) 応招議員（16名）

1番 陰山 丈夫	2番 渡辺 泰 譽	3番 影山 初 吉
4番 佐藤 弘	5番 本田 忠 良	6番 日下部 三 枝
7番 佐藤 一 八	8番 渡辺 正 久	9番 三瓶 文 博
10番 佐久間 正 俊	11番 小林 鶴 夫	12番 橋本 善 次
13番 鈴木 利 一	14番 渡邊 勝 雄	15番 儀同 公 治
16番 本多 一 安		

2) 不応招議員（なし）

2 会議に付した事件は次のとおりである。

議案第56号 東日本大震災農業生産対策交付金堆肥センター復旧工事請負変更契約について

議案第57号 新三春中学校生徒用机・椅子他購入契約について

議案第58号 新三春中学校スクールバス（中型バス）車両購入契約について

議案第59号 新三春中学校スクールバス（マイクロバス）車両購入契約について

議案第60号 三春町暴力団排除条例の制定について

議案第61号 三春町立小学校及び中学校条例の一部を改正する条例の制定について

議案第62号 風致地区内における建築等の規制に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第63号 三春町防災会議条例の一部を改正する条例の制定について

議案第64号 三春町災害対策本部条例の一部を改正する条例の制定について

議案第65号 田村市と三春町との間の園児及び小学校学齢児童並びに中学校学齢生徒の教育事務の委託に関する規約の一部を改正する規約の制定について

議案第66号 教育委員会委員の任命につき議会の同意を求めることについて

議案第67号 教育委員会委員の任命につき議会の同意を求めることについて

議案第68号 人権擁護委員候補者の推薦につき議会の意見を求めることについて

議案第69号 平成24年度三春町一般会計補正予算（第2号）について

議案第70号 平成24年度三春町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について

議案第71号 平成24年度三春町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について

議案第72号 平成24年度三春町介護保険特別会計補正予算（第1号）について

議案第73号 平成24年度三春町放射性物質対策特別会計補正予算（第2号）について

議案第74号 平成23年度三春町一般会計歳入歳出決算認定について

議案第75号 平成23年度三春町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について

議案第76号 平成23年度三春町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

議案第77号 平成23年度三春町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について

議案第78号 平成23年度三春町町営バス事業特別会計歳入歳出決算認定について

議案第79号 平成23年度三春町放射性物質対策特別会計歳入歳出決算認定について

議案第80号 平成23年度三春町水道事業会計未処分利益剰余金の処分及び歳入歳出決算認定について

議案第81号 平成23年度三春町下水道事業等会計歳入歳出決算認定について

議案第 8 2 号 平成 2 3 年度三春町宅地造成事業会計資本剰余金の処分及び歳入歳出決算
認定について

議案第 8 3 号 平成 2 3 年度三春町病院事業会計歳入歳出決算認定について
報 告

報告第 5 号 平成 2 3 年度財政の健全化に関する比率の報告について

報告第 6 号 平成 2 3 年度三春町第三セクターの経営状況報告について

平成24年9月6日（木曜日）

1 出席議員は次のとおりである。

1番 陰山 丈夫	2番 渡辺 泰譽	3番 影山 初吉
4番 佐藤 弘	5番 本田 忠良	6番 日下部 三枝
7番 佐藤 一八	8番 渡辺 正久	9番 三瓶 文博
10番 佐久間 正俊	11番 小林 鶴夫	12番 橋本 善次
13番 鈴木 利一	14番 渡邊 勝雄	15番 儀同 公治
16番 本多 一安		

2 欠席議員は次のとおりである。

なし

3 職務のため議場に出席した者の職氏名は次のとおりである。

事務局長 橋本 清文 書記 近内 信二

4 地方自治法第121条の規定により説明のため議場に出席した者の職氏名は次のとおりである。

町長	鈴木 義孝
副町長	橋本 國春

総務課長	佐久間 收	財務課長	村上 正義
住民課長	工藤 浩之	税務課長	佐久間 幸久
保健福祉課長	影山 敏夫	産業課長	新野 徳秋
建設課長	伊藤 朗	会計管理者兼 会計室長	村田 浩憲
企業局長	増子 伸一		

教育委員会委員長	武地 優子	教育長	遠藤 真弘
教育次長兼教育課長	橋本 良孝	生涯学習課長	遠藤 弘子

農業委員会会長	大石田 紘一
---------	--------

代表監査委員	野口 邦彦
--------	-------

5 議事日程は次のとおりである。

議事日程 平成24年9月6日（木曜日） 午前10時40分開会

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 諸般の報告
- 第4 議案の提出
- 第5 町長挨拶並びに提案理由の説明
- 第6 議案の質疑
- 第7 監査報告
- 第8 議案の委員会付託

第 9 報告事項について

6 会議次第は次のとおりである。

(開会 午前10時40分)

…………… 開 会 宣 言 ……………

○議長 ただいまより、平成24年三春町議会9月定例会を開会いたします。
ただちに本日の会議を開きます。

…………… 会議録署名議員の指名 ……………

○議長 日程第1により、会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員は、会議規則第113条の規定により、15番儀同公治君、1番陰山丈夫君のご
両名を指名いたします。

…………… 会 期 の 決 定 ……………

○議長 日程第2により、会期の決定を議題といたします。
お諮りいたします。
本定例会の会期は、本日より9月14日までの9日間といたしたいと思いますが、ご異議ありま
せんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。
よって本定例会の会期は、本日より9月14日までの9日間と決定をいたしました。
なお、会期日程につきましては、お手元に通知しました日程表のとおりといたしますので、ご了
承願います。

…………… 諸 般 の 報 告 ……………

○議長 日程第3により、諸般の報告をいたします。
出納検査の結果について、監査委員より、平成24年度第3回、第4回、第5回の例月出納検査
報告がありましたので、その写しをお手元に配布しておきましたのでご了承願います。

…………… 議 案 の 提 出 ……………

○議長 日程第4により、議案の提出を行います。
提出議案は、お手元にお配りいたしました「議案第56号、東日本大震災農業生産対策交付金堆
肥センター復旧工事請負変更契約について」から「議案第83号、平成23年度三春町病院事業会
計歳入歳出決算認定について」までの28議案であります。

…………… 町長挨拶並びに提案理由の説明 ……………

○議長 日程第5により、町長挨拶並びに提案理由の説明を求めます。
鈴木町長！

○町長 9月定例会の開会にあたり、現下の情勢と提出する議案の概要等について説明いた
します。

まず、昨年3月11日に発生した東日本大震災関係についてであります。大震災とその後
の原発事故への対応につきましては、町民の皆様をはじめ国内外の皆様から多くの温かいご
支援をいただきました。改めて心より感謝と御礼を申し上げます。あれから1年6ヶ月が経
過しようとしておりますが、町では復旧・復興へ向け、町民の皆様と一丸となった取り組み
を続けております。震災により被害を受けた数多くの道路等公共施設については、その多く
が復旧し、着実に元の姿へと戻りつつあります。

一方、原発事故により引き起こされた放射性物質の拡散は、人体への健康被害への不安や、

農作物の出荷制限、農林業、商工業、観光業などへ様々な影響をもたらし、学校・幼稚園・保育所などでの屋外活動の制限や、農作物の作付け制限、観光客の減少等、深刻な被害を受けました。このため、町民皆様の不安を解消し、安心安全な生活を一日も早く取り戻すため、放射性物質汚染対処特措法に基づく三春町除染実施計画の策定に、町、議会及び自主防災会連合会が一体となって取り組みをしております。ただし、現時点では未だ国の法定計画への位置づけはされておりませんが、間もなく法定計画として認定される運びになっております。更に、除染を円滑に推進するため仮置場の検討を各地区にお願いし、北部3地区は合同で富沢地内の町有地に決定いたしました。引き続き、仮置場の設置と除染を推進して参る所存であります。

健康被害への不安解消対策として、空間線量の継続的な測定や、食品、水道水、井戸水等の放射能測定、放射能に対する正しい知識を得るための勉強会の開催、子どもたちが安心して生活できるよう、積算線量計の配布や、地区民主体での通学路の除染作業、学校の校庭や公園の表土除去による空間線量の低減等を実施いたしました。

農業の分野においても、米の放射性物質緊急調査をはじめとした各種農畜産物の放射性物質測定や、首都圏等での地場産野菜のPR活動を実施しております。更に、今年の春先からは、農地の除染作業を一部実施するなど、可能な限りの対策を進めております。

商工観光の分野においては、「ふくしまの観光復興は三春から」をキャッチフレーズに滝桜観光対策を実施するとともに、仮設住宅で暮らす葛尾村と富岡町の皆さんと共に復興三春春まつりを開催するなど、大震災からの復興・復旧をPRして参りました。今後も各種団体が中心となり、元気を発信するイベントが多数企画されております。

続いて、平成23年度に町が重点施策として取り組んだ施策の主な成果と決算の概要について説明いたします。

第1は、「中学校再編に関する取り組み」についてであります。中学校再編の推進は、町の最重要課題として取り組んで参りました。新三春中学校の建築工事に関しましては、昨年11月に着工し、本年12月の完成を目指し予定通り進捗しております。また、開校に向けては、準備委員会及び検討部会を随時開催し、教育課程、制服、校章、校歌、部活、通学等について協議・検討を行っているところであります。

第2は「町有施設の修繕等に関する取り組み」についてであります。公共施設の耐震化や廃校となる中学校の利活用計画は重要な課題であることから、町民代表などによる公共施設整備方針検討委員会を設置し、検討を行って参りました。平成23年度は役場、旧公民館及び図書館について集中して検討いただき、本年5月の中間報告では、特に役場庁舎の建替えの必要性について報告がありました。これを受けまして、庁舎建設の具現化に向けた検討を現在行っているところであります。更に、廃校となる中学校の利活用につきましては継続して検討いただいております。三春小学校の耐震化工事については、東日本大震災を踏まえ、児童の安全・安心を確保するために耐震化計画を前倒して、平成24年度に調査設計、平成25から26年度工事として取り組む方針といたしました。公共施設の修繕には多額の経費が必要となるため、長期修繕計画の策定に取り組んでおりますが、現況調査を終えた中から、町営貝山プールの改修、要田交流館大平荘の耐震化、学校等のトイレ洋式化などに計画的に取り組んでいるところであります。

また、今後、整備すべき公共施設が多いことから、施設整備を計画的に推進するために公有施設整備基金を設置したところであります。

第3は、「産業興しに関する取り組み」についてであります。産業全般にわたり、原発事故

によって放射線量の測定や損害賠償支援等の対応に迫られ、また、自粛ムードやいわゆる風評被害などによって、残念ながら事業の進展が停滞しております。そのような中で、長年の課題であった商業核店舗のスーパーが移転、新装開店いたしましたことは、商店街の活性化にとって朗報であります。現在、市街地活性化の一助として町が所有する中町蔵の整備を行い、店舗としての活用を検討しておりますが、スーパー跡地の利活用などの課題もあり、関係団体とともに知恵と工夫を出し合い、中心市街地の活性化に積極的に取り組んで参ります。

また、企業立地関係では、町内の2企業が田村西部工業団地に進出の意向を示しており、県、町の制度を十分に活用し、支援を行って参りたいと考えております。

第4は、「訪ねてみたくなる地域づくりに関する取り組み」についてであります。滝桜観光対策では、平成23年度は原発事故によって観桜料の徴収を取りやめ、渋滞対策等は最低限の対応に留めましたが、大震災に負けない心のシンボルとして多くの人に訪れていただきました。秋を彩るもみじの里づくりでは、現もみじ山西側の拡張に取り組むこととし、地権者の理解を得て、現在整備を進めております。市街地の回遊に欠かせないお城山は、ここ5ヶ年にわたり整備を進めておりますが、平成23年度は散策路整備などの取組みと、各まちづくり協会等の協力のもとアジサイを植栽し、城山整備を進めました。

地域間交流では、これまで交流を図ってきた全国の多くの方々から支援が寄せられました。改めて、感謝を申し上げたいと存じます。

第5は、「安全で安心して暮らせる生活環境創造に関する取り組み」についてであります。生活・生産基盤向上のための道路網の整備では、太田線に着手し、継続事業の日影線が完成いたしました。生活道路では、まちづくり要望のあった路線などを計画的に整備し、市街地では、長年の懸案であった北町荒町線の改良に着手いたしました。町内で実施され町が支援している県事業関係は、順調に進展し、国道288号三春西バイパスは平成25年3月開通を目指し工事が進められ、桜川改修事業は、地権者をはじめ関係者の協力により、改良済延長が50.7%、事業費ベースで69.1%となっております。今後も関係者の協力を得ながら円滑に事業が推進されるよう、家屋の移転対策などに積極的に取り組んで参ります。東日本大震災において、災害時の情報伝達の迅速化が必要不可欠であったという教訓から、防災行政無線のデジタル化を図り、役場親局設備の更新、難聴地区への外部スピーカーの整備などに取り組むことといたしました。

第6は、「次世代育成に関する取り組み」についてであります。人口の減少は、町の活力と経済に大きな影響を及ぼす問題であります。そのため、人口の流出・減少を抑制し、定住を促進するため定住促進計画の策定を進めました。計画した事業につきましては、平成24年度から具体的に取り組んで参ります。少子化対策事業には重点的に取り組み、さまざまな事業を推進いたしました。平成23年度では、乳幼児検診における歯科検診にフッ素塗布の導入、出産育児一時金の増額など充実を図りました。まほらっ子教室を継続して開催するとともに、保護者の就労等を支援するため、平成24年度から御木沢児童クラブを新たに開設いたしました。

なお、課題となっている子育て支援センターの充実、幼稚園・保育所のあり方については、継続して検討して参ります。

第7は、「町民の健康増進と福祉施策の充実に関する取り組み」についてであります。指定管理者による町立三春病院の経営は、入院、外来患者数とも伸び、前年度に引き続き単年度収支は黒字でありました。特に、東日本大震災では、避難患者の受入、避難所での医療支援など災害時拠点病院としての役割を存分に発揮したものと自負しております。今後も地域医

療の核施設として更なる機能の充実に取り組んで参りたいと考えております。国保医療費は前年度比マイナス5.5%となりましたが、疾病構造に対応した施策の推進や健診受診率の向上などにより、医療費の抑制、国保財政の安定化に積極的に取り組むべきであると考えております。小児細菌性髄膜炎を予防するため、ヒブワクチンと小児肺炎球菌ワクチンの接種費用の無料化を制度化し、また、肺炎球菌ワクチン接種の助成を年度内に65歳以上の高齢者にも拡大いたしました。介護予防事業は前年度まで白山福祉館で実施してきましたが、大震災で施設の利用ができなくなったため、「にこにこ元気塾」として各地区の交流館等で開催するよう変更いたしました。これにより参加者が増えるなどの効果がありました。

なお、地域密着型特別養護老人ホーム等の介護施設整備が計画されておりましたが、当初予定されていた事業者の都合により、取りやめとなってしまいました。しかしながら、新たな事業者が名乗りを挙げ、現在実施に向け準備を進めているところであります。

続いて、平成23年度決算の概要についてであります。歳出決算額では、一般会計が81億9,446万円、特別会計では、国民健康保険特別会計等5事業の合計が33億3,943万円、また、水道事業等と病院事業4企業会計の合計は、13億2,784万円でありました。

次は、町債についてであります。平成23年度末町債借入残高は、一般会計85億2,241万円となり、前年度と比較して4億7,752万円の減となりました。また、水道事業等企業会計の借入残高は、49億7,254万円で、前年度と比較して2億7,530万円の減となりました。

次は、財政状況を示す指標についてであります。経常収支比率については90.7%と前年度より0.9ポイント上昇いたしました。実質公債比率は13.9%と前年度より1.8ポイント減となりました。また、将来負担比率についても90.0%と前年度より33.1ポイントの減少となり、財政指標全般で年々改善しております。

次に、決算の総括についてであります。平成23年度は、重点施策でも申し上げたとおり、東日本大震災・原発事故からの復旧復興を目指し、放射線量の測定や除染対策への取り組みなど、町民の安全・安心を確保する各種施策の推進を最優先に、積極的な展開を図りました。また、経常業務につきましては、限られた財源の重点的かつ効率的な配分に努め、更なる町民の福祉向上を目指し取り組みました。その結果、新三春中学校建設などの主要事業をはじめ、計画した事務事業は概ね順調に進展し、まちづくりを確実に前進させることができたものと考えております。

放射能との戦いは依然として続きますが、町民の皆様と力を合わせてこの難局を乗り越え、一步一步前進して参りたいと考えておりますので、今後とも町勢進展のため、なお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、今定例会に提案しました議案につきましては、「東日本大震災農業生産対策交付金堆肥センター復旧工事請負契約変更について」をはじめ、新三春中学校の机・椅子等の備品、スクールバス購入、条例の新規制定及び一部改正、田村市と三春町との間の規約の一部改正、人事案件、補正予算、剰余金の処分と決算認定であります。それらの説明につきましては、配布いたしました議案書、議案説明書のとおりでありますので、慎重に審議されまして、全議案可決、同意、承認いただきますようお願い申し上げます、開会にあたってのあいさついたします。

よろしく願いいたします。

…………… 議案の質疑 ……………

- 議長 日程第6により、会議規則第37条の規定により、提出議案に対する質疑を行います。
これは、「議案第56号、東日本大震災農業生産対策交付金堆肥センター復旧工事請負変更契約について」から「議案第83号、平成23年度三春町病院事業会計歳入歳出決算認定について」までの提案理由の説明に対する質疑であります。
- 議長 議案第56号、「東日本大震災農業生産対策交付金堆肥センター復旧工事請負変更契約について」を議題といたします。
これより質疑を許します。
(なしの声あり)
- 議長 質疑なしと認めます。
議案第57号、「新三春中学校生徒用机・椅子他購入契約について」を議題といたします。
これより質疑を許します。
(なしの声あり)
- 議長 質疑なしと認めます。
議案第58号、「新三春中学校スクールバス(中型バス)車両購入契約について」を議題といたします。
これより質疑を許します。
(なしの声あり)
- 議長 質疑なしと認めます。
議案第59号、「新三春中学校スクールバス(マイクロバス)車両購入契約について」を議題といたします。
これより質疑を許します。
(なしの声あり)
- 議長 質疑なしと認めます。
議案第60号、「三春町暴力団排除条例の制定について」を議題といたします。
これより質疑を許します。
(なしの声あり)
- 議長 質疑なしと認めます。
議案第61号、「三春町立小学校及び中学校条例の一部を改正する条例の制定について」を議題といたします。
これより質疑を許します。
(なしの声あり)
- 議長 質疑なしと認めます。
議案第62号、「風致地区内における建築等の規制に関する条例の一部を改正する条例の制定について」を議題といたします。
これより質疑を許します。
(なしの声あり)
- 議長 質疑なしと認めます。
議案第63号、「三春町防災会議条例の一部を改正する条例の制定について」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第64号、「三春町災害対策本部条例の一部を改正する条例の制定について」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第65号、「田村市と三春町との間の園児及び小学校学齢児童並びに中学校学齢生徒の教育事務の委託に関する規約の一部を改正する規約の制定について」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第66号、「教育委員会委員の任命につき議会の同意を求めることについて」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第67号、「教育委員会委員の任命につき議会の同意を求めることについて」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第68号、「人権擁護委員候補者の推薦につき議会の意見を求めることについて」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第69号、「平成24年度三春町一般会計補正予算(第2号)について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第70号、「平成24年度三春町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第71号、「平成24年度三春町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第72号、「平成24年度三春町介護保険特別会計補正予算(第1号)について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第73号、「平成24年度三春町放射性物質対策特別会計補正予算(第2号)について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第74号、「平成23年度三春町一般会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第75号、「平成23年度三春町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第76号、「平成23年度三春町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第77号、「平成23年度三春町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第78号、「平成23年度三春町町営バス事業特別会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第79号、「平成23年度三春町放射性物質対策特別会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第80号、「平成23年度三春町水道事業会計未処分利益剰余金の処分及び歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

余剰金計算書・処分計算書(案)及び収益的収入支出・資本的収入支出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第81号、「平成23年度三春町下水道事業等会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

収益的収入支出・資本的収入支出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第82号、「平成23年度三春町宅地造成事業会計資本剰余金の処分及び歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

余剰金計算書・処分計算書(案)及び収益的収入支出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

議案第83号、「平成23年度三春町病院事業会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

収益的収入支出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

……………・・ 監 査 報 告 ・・……………

○議長 日程第7により、監査報告について。

監査委員から、平成23年度に関する各種会計決算審査の意見についての報告を求めたいと思います。

野口代表監査委員!

○野口代表監査委員 平成23年度、各会計の決算審査についてご報告を申し上げます。別途、意見書を提出しておりますけれども、若干の説明を加えて最終的な報告とさせていただきたいということでございます。監査委員は、私、野口と議会選出の渡辺泰譽委員の2人でございます。

審査の期間でございますけれども、平成24年8月6日から10日までの5日間、実施をいたしました。

審査の対象でございますが、(1)平成23年度三春町一般会計決算から、(11)平成23年度三春町病院事業会計決算までの11件でございます。

審査の方法でございますけれども、予め町長から提出されました、平成23年度一般会計・特別会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書等々の関係資料を審査したところでございます。審査の骨組みでございますけれども、各項目ともですね、計数は正確であるか。次に予算の執行は、法令に準拠し、適正かつ効率的であるか。財政

の運営は適正であるか。財産の管理は適正であるか。基金の運用は適正であるか。などに主眼重点をおきながら、毎月実施しております例月出納検査の結果、これらも合わせて、慎重に審査をしたところでございます。

そして、これらについての審査の結果でございますけれども、審査に付された各会計決算書等に基づき、関係諸帳簿及び証拠書類を照合審査した結果、決算計数はいずれも符号して誤りのないものと認められたところでございます。これが、概説のような審査結果でございます。

具体的には、その第1は、一般会計についてでございます。一般会計の収支につきましては、別表に記載をいたしておりますけれども、歳入総額が90億2,247万円、それに対して歳出の総額が、81億9,446万円でございます。この結果、形式的な収支は、8億2,800万円で、実質収支は6億6,572万円の黒字決算ということになります。また、一般会計の予算の執行状況でございますけれども、歳入決算額は、予算現額に対して、5億7,562万円の減少でございます。予算現額に対する収入率は、94.0%となっております。一方、調定額に対する収入率でございますけれども、97.6%でございます。収入未済額2億1千6百55万円につきましては、前年度に比べ、7千874万円増えております。

一方、歳出決算額は、予算現額に対して85.4%の執行率でございます。不用額は、14億363万円となっております。

次に、一般会計における町債の残高でございますけれども、別表に記載をしたところでございます。対前年度4億7,751万7千円減少の85億2,240万8千円でございます。一般会計の町債の残高は次の表のとおりであります。

次に、財政の構造にかかわる歳入構成でございますが、いわゆる町税等の自主財源、それから地方交付税等の他に依存財源について、それぞれ別表に示しておりますけれども、自主財源、自らの財源が33.3%、他に依存した財源が約66.7%、ちょうど3分の1と3分の2というふうに分かれております。

一方、歳出の構成でございますけれども、これにつきましては、いろいろな分析の仕方がございますけれども、今回は義務的な経費・投資的な経費・その他という3つの区分に分けて数字を整理しますと別表のとおりとなりますので、後でご覧をいただきたいと思っております。

それから、財政構造の弾力性でございますが、財政力指数以下、4項目の詳細な率につきましては、一覧表に整理をいたしておりますので、解説とともに数字をご覧いただきたいと思っております。

以上が一般会計の骨子でございますけれども、次は特別会計でございます。

平成23年度、5つの特別会計があったわけでございますけれども、これの収支状況につきましては、別表に整理をしております。全体で歳入総額が34億8,774万円、それに伴う歳出総額が33億3,943万円、差引額といたしまして1億4,831万円と特別会計は黒字という結果でございます。

特別会計の各会計でございますが、まず、三春町国民健康保険特別会計の決算状況でございます。一覧表にしてございますけれども、23年度国民健康保険税における現年度課税分に対する未納額、納まらない金額は2,879万円でございます。これに今までの滞納繰越分、前年度からの繰越分を含めた未納額を合計いたしますと1億1,449万円になっているという決算の結果でございます。逆に保険給付費は12億4,148万円でございます。これは前年度に比べて4,544万円減少しております。また、後期高齢者支援金等につき

ましては、2億3,979万円、前期高齢者納付金等につきましては、71万円となっております。それから、老人保健拠出金でございますけれども、40万円と対前年度で、48万円減少しております。なお、介護納付金は、1億2,376万円と対前年度で、1,867万円増加しております。次に、予算の執行状況でございますけれども、歳入決算額は、予算現額に対しまして、3,802万円の減収でございます。一方、歳出決算額については、予算現額に対して、92.6%の執行率でございます。

次に、後期高齢者医療特別会計の決算収支状況でございますけれども、歳入決算額は、予算現額に対し、170万円の減収となり、予算額に対する収入率は98.9%ということでございます。一方、歳出決算額につきましては、予算現額に対して98.9%の執行率となっております。

次に、介護保険特別会計の決算収支状況でございますが、これは表をご覧いただきたいと思っております。

次に、三春町町営バス事業特別会計の決算収支状況でございます。これは前年度と事業費、事業内容ほぼ似たような事業となったところでございます。

それから、三春町放射性物質対策特別会計でございますけれども、特別会計の設置そのものが近々でございました。予算の執行状況につきましては、歳入決算額は予算現額に対して、2,761万円の減収となり、予算額に対する収入率につきましては、0.5%となっております。一方、歳出決算額は、予算現額に対して、0.5%の執行率となっており、今だ活動を発しないというふな特別会計の歳入歳出だというふうに考えております。

次は、大きな項目で公有財産管理でございます。町が保有している財産の管理ということでございます。土地及び建物・物権・有価証券・出資による権利、これにつきましては、別表にまとめましたのでご覧いただきたいと思っております。

同じく、基金の状況でございます。運用基金・積立基金・特別会計の残高等については、同じような表にまとめましたのでご覧いただきたいと思っております。

次は、企業会計でございます。その1は、三春町水道事業会計でございます。給水の人口、給水の件数、普及率などの事業の状況は、表にまとめました。次に、収支の状況でございますけれども、事業収入は3億2,520万円、事業費用は3億919万円でございます。差引き1,601万円の黒字決算となっております。次に、資本的収入及び支出でございますけれども、税込みで収入は、総額5,859万円、それに対する支出でございますけれども、総額1億7,975万円ということになりまして、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額1億2,116万円につきましては、現年度の損益勘定留保資金等で補てんをいたしたところでございます。次に、会計状況のうち、企業債、他会計長期借入金の借入及び償還につきましても、別表に記載をいたしました。ご覧いただきたいと思っております。それから利益が出ました水道でございますけれども、1,601万円の黒字決算でございました。前年度からの繰越利益剰余金4,221万円と合わせますと、水道事業会計といたしましては、5,822万円と黒字の繰越しとなるところでございます。それから、水道関係で保有をしている財産の管理でございます。有形固定資産・無形固定資産、それぞれ別表に詳しく記載をしておりますのでご覧いただきたいと思っております。

上水に対して、下水道事業等会計でございます。これは残念ながら赤字の決算でございました。普及率が伸びない、ある程度やれる状況のところはやってしまった、そういうことが数年続いておりましたけれども、どうしても下水道については伸びて行かないということで

ございます。これは、事業の状況も含めまして、歳入歳出等々につきましては、別表をご覧くださいと思います。

それから、宅地造成事業会計でございます。平成23年度の分譲実績は1件でございます。また、16年度から定期借地方式を導入いたしておりまして、これについては7区画について契約を締結しておるところでございます。土地代の見直し等も行っておりますので、数字としては減額の数字に今回の決算ではなかったわけでございます。土地の価格を下げたお客さんを募集しておりますので、財産が評価損で安くなっているということでございます。

それから、病院事業会計でございますけれども、これは建物が町で業務は病院といふなことでございます。医業業務を持っておりませんので、建物の保持、それに係る経費は全て借入のような形で賄っておりますので、毎年借入が増えていくというふうな結果になるかと思っております。

まことに早口で、数字を追いかけっこしているようなお話しで、恐縮でございましたが、どうしても決算の審査ということになりますと、こういうような数字の積み上げが決算の結果、どういう位置付けをするかということになるわけでございます。ご了承をいただきたいと思っております。

各項目につきましては、以上でございますけれども、私と渡辺泰譽委員とこの審査を行ったわけでございますけれども、それが終わった時点で話をいたしました。その話しの内容を「結び」という形で一番後尾に付けておきましたので、お読みいただければ幸いです。

それから、加えまして各会計の地方債をどれくらい残しているのか。それから、債務負担行為はどういうふうなことになっているのか。地方交付税がどのようになっているのか。そういうものについても、履歴を表にして添付をいたしております。特に借入等の仕事に従事されている方については、一読する価値があるような表ではないかというふうに考えております。

以上で平成23年度の審査結果ということにいたしたいと思っております。

…………… **議案の委員会付託** ……………

○議長 日程第8により、議案の委員会付託を行います。

ただいま議題となっております議案第56号から議案第83号までは、お手元にお配りしました議案付託表のとおり、各常任委員会に付託することに、ご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、各常任委員会にそれぞれ付託することに決定をいたしました。

なお、付託以外の議案についても、各常任委員会において審査されるようお願いをいたします。

…………… **報告事項** ……………

○議長 日程第9、報告事項について。

報告第5号、平成23年度財政の健全化に関する比率の報告について。

報告第6号、平成23年度三春町第三セクターの経営状況報告について。

町長より報告がありましたので、お手元に配布しておきましたのでご了承を願います。

…………… **散会宣言** ……………

○議長 以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

これにて散会をいたします。大変ご苦勞様でございました。

(閉会 午前11時34分)

平成24年9月7日（金曜日）

1 出席議員は次のとおりである。

1番 陰山 丈夫	2番 渡辺 泰譽	3番 影山 初吉
4番 佐藤 弘	5番 本田 忠良	6番 日下部 三枝
7番 佐藤 一人	8番 渡辺 正久	9番 三瓶 文博
10番 佐久間 正俊	11番 小林 鶴夫	12番 橋本 善次
13番 鈴木 利一	14番 渡邊 勝雄	15番 儀同 公治
16番 本多 一安		

2 欠席議員は次のとおりである。

なし

3 職務のため議場に出席した者の職氏名は次のとおりである。

事務局長 橋本清文 書記 近内信二

4 地方自治法第121条の規定により説明のため議場に出席した者の職氏名は次のとおりである。

町長	鈴木義孝
副町長	橋本國春

総務課長	佐久間收	財務課長	村上正義
住民課長	工藤浩之	税務課長	佐久間幸久
保健福祉課長	影山敏夫	産業課長	新野徳秋
建設課長	伊藤朗	会計管理者兼 会計室長	村田浩憲
企業局長	増子伸一		

教育委員会委員長	武地優子	教育長	遠藤真弘
教育次長兼教育課長	橋本良孝	生涯学習課長	遠藤弘子

農業委員会会長	大石田紘一
---------	-------

代表監査委員	野口邦彦
--------	------

5 議事日程は次のとおりである。

議事日程 平成24年9月7日（金曜日） 午前10時開会
第1 一般質問

6 会議次第は次のとおりである。

（開会 午前10時）

…………… 開 会 宣 言 ……………

○議長 おはようございます。ただいまより、本日の会議を開きます。

…………… 一 般 質 問 ……………

○議長 日程第1により、一般質問を行います。

議会の申し合わせにより、一般質問は質問席において、一問一答により行います。

質問の全体時間は、再々質問まで30分以内の時間制限であります。

通告による質問を順次許します。

4番佐藤弘君！質問席に登壇願います。

質問を許します。

○4番（佐藤弘君） 先に通告してあります保育所の民営化、指定管理者制度導入について質問をいたします。

第1に教育委員会の8月定例会において、より効果的・効率的な保育所運営を目指すとともに、町民サービスの向上を図るため、民間活力の導入を検討、三春町にとってプラスになると考え保育所の民営化を進めることについて了承ということではありますが、具体的に次の3点についてお聞かせ願います。

1つ、より効果的・効率的保育所運営とは何を指すのか。

2つ、町民サービスの向上とは、どのようなことなのか。

3つ、三春町にとってプラスになることとは何なのか。

第2に民営化の課題として、保護者の不安解消や理解を得ること、子どもの負担にならないようにすることといわれておりますが、課題がクリアされると判断するのは何ですか。

第3にまず、第1保育所の民営化がいわれておりますが、今後の町の幼児施設、保育所・幼稚園について、計画されていることがあればお聞かせ願います。

○議長 質問に対する当局の答弁を求めます。

遠藤教育長！

○教育長 お答えいたします。第1の質問に、まずお答えをいたします。

1点目の「より効果的・効率的保育所運営とは何を指すのか。」についてでございますが、保育、幼児教育を充実させ、保護者ニーズに応える運営をしていくことを指すと考えております。

2点目の「町民サービスの向上とは、どのようなことなのか。」についてですが、さらなる延長保育、土曜日の1日保育など、現在、実施していない保育サービスを実現させていくということでもあります。

3点目の「三春町にとってプラスになることとは何なのか。」についてですが、町では、子育て支援の充実を町政の重要な柱として位置づけております。保育サービスの向上は、若い子育て世代にとって大きな魅力になると考えており、若者の定住促進にもつながるものと期待しております。また、民間事業者のノウハウ、運営の工夫など、町にとっても参考になるものがあると考えております。

第2の質問についてお答えいたします。

平成22年社会福祉施設等調査結果によりますと、認可保育所の公営と民営の比率は、ほぼ1対1になっており、全国的には民間の保育所は珍しくはありません。しかし、当町では町が保育所運営の役割を担ってきたことから、公設民営といえども、民営化に対する保護者の不安は少なくないと考えております。このことから、過日保護者説明会を開催し、保護者の方の考え、思いなどを伺いました。まだ、指定管理者が決定していないため、現時点では明確に説明できない点があり、保護者の不安を完全に払拭することはできなかったと認識しております。今後さらに保護者の理解が得られるよう、一層努力して参ります。

また、子どもの負担にならないようにするという点については、保護者と保育所の信頼

関係の中で保育すること、ひいては保育士の大幅な異動がないようにすることと考えております。そのためには、町の臨時職員をできる限り採用してもらうように指定管理者に強く働きかけますとともに、町から職員を派遣することも前向きに検討して参りたいと考えております。これらのことについて、課題がクリアされたと判断するのは、保護者の理解が得られたと判断された時点だと考えております。

第3の質問についてお答えいたします。

ここ数年の未就学児の数と現在の施設の数、規模、利用状況から、3歳から5歳児については、概ね現状どおりで良いと考えております。しかし、3歳未満の乳幼児については、増加傾向が見られることから、その対策が必要と考えております。その一つとして、岩江幼稚園との連携を考えながら、0歳から2歳までの低年齢児の保育施設の新設を検討して参りたいと考えております。

以上でございます。

○議長 再質問があればこれを許します。

佐藤弘君！

○4番(佐藤弘君) ただいまの答弁なんですけれども、一番最初の効果的・効率的保育所運営、これは保護者のニーズをと言っており、保護者のニーズに応える。保護者のニーズとは何なのかというのが具体的にでなければ、この効果的・効率的という中身がないと思うんですよね。

それから、二番目についても、更なる保育延長等が行われる。それが町民のサービスの向上だと、こういうことであります。

そして三番目は子育て支援の向上、若者の定住化等、町にプラスになると、こういうことなんですけれども、いずれにせよ、民営化でなければならぬというのが、どこにも無いのではないかと。町でやられている今の中でも、保護者のニーズに応えることは十分できるのではないかと。なぜ民営化しないとできないのかというところがなければですね、民営化する意味が理解できないのではないかと。何のために民営化するのか。それが具体的にはっきり何か質問によってするのかなと思ったんですけれども、抽象的である意味では再度言いますが、民間でなければできない。したがって、今回民営化するんですよ、という強い中身がちょっと感じられない。延長保育にしても町でやろうとすれば出来る。やろうとしないから出来ないのではないかと。こういうふうには思えない。

更に第二の質問で、課題の問題なんですけれども、保護者に理解が得られるまでと、こういうような話しで説明会をやりまして、けれども、なかなか理解が今のところ、第1回目ですから多分そうなのかなと思うんですけれども、得られていない状態だとこういうことなんです、具体的に母親のニーズと言いますか要望と言いますか、どういう点が一番やっぱり今出されていたのか。ようするにクリアするには、今後どういうことが今考えられるのか、整理がつかれていれば、お話しをお願いします。

それから、第三についてでありますけれども、今後の施設について計画されていることということで岩江の幼稚園、これが今後の問題としてこの間、議員の全員協議会の中で説明があった中身だと思うんですけれども、0歳児から扱う0歳児から5歳児まで扱う仮称岩江子ども園と言いますか、そういうふうな中身で新設をしてやって行きたいと、今後の計画の一つとして話しがあったわけでありまして、今回第1保育所が民営化だということで、民営化が良いんだということであれば、当然、第2保育所その他の保育所を含めて将来

的には民営化で行くよ、というものがどこにもうたわれていない。どこにも話しとしてでない。それは今後の問題だというようなことでは、私はなにか一貫がまったくしていない。突然、第1保育所が急遽、民営化をせざるを得ないみたいな話して、今まで教育委員会として議論をして、「民営化がやっぱりいろんな意味で良いんだよ」、そういうことであれば第2なり、それは5年先なのか何年先なのか別として、全体的な方針と言いますかね、方向付けが、やっぱりそういう方向付けをした上で、まず第1だよという話しであれば良いんですけども、第2についてはということであれば、第2それは今後考えます、これからですという話しでは一貫まったくしていない。その辺も含めて再度お聞かせを願いたいと思います。

○議長 当局の答弁を求めます。

鈴木町長！

○町長 質問の内容が多岐に渡りますけれども、根幹部分について私からお答えをいたしたいと思います。

実は保育所・幼稚園の民営化については、もう何年になりますかね、かなり前から内部ですら検討をして参りました。議員もご承知のように三春町は思い切った行財政改革プランを立てまして、民間で出来ることは民会にやっていただこうと、それが行革の考え方の一つでありました。そんなことでですね、今までかなりの部分、民営化を進めて参りました。

しかし、この民営化を進めるにあたっての基本的な考え方、これは住民サービスの低下にはしないと、むしろ住民サービスの向上を目指しながら民営化を進めると、こういう考えであります。敬老園も前は町が直営でやっておりました。しかし、民営化しました。三春病院も民営化であります。それから、三春の里振興公社や福祉会館や、あるいはライスレイクの家、かなりの部分を指定管理者制度で民営化を図って参りました。ただ、保育所・幼稚園に関しましては、なかなか非常に難しさがありました。民間で「是非やらせてくれ」という全国的に展開している企業等もありましてけれども、どうも町の意向に沿わないということできっと時間を掛けてきたわけでありまして、それでいま、保育所・幼稚園の職員は臨時職員が正職員より多くなっている現状でございます。そういう考えをしておりましたので保育所の本採用はずっと控えて参りました。何か事故がありましたら、臨時職員には責任を負わせられませんし、町の責任であります。いろんなことが心配されて、ずっと何年も来たわけですが、いよいよいろんなことが考えられる状況下になって参りまして、民営化を進めようと、こういうふうになった経緯がございます。

したがって、所管は教育委員会でございますけれども、実施はやっぱり町の考えが基本にあるとこういうことをご理解いただきたいと思います。そういう中で教育委員会でいろいろ検討していただいたと、こういう状況でございます。ご理解をいただきたいと思います。

○議長 遠藤教育長！

○教育長 大筋のところは今町長からあったとおりでございますが、その他細かいことにつきまして質問もありましたのでお答えをいたします。

なぜ民営化ということで、町職員でも今のままでですね、出来る部分もあるのではないかと、ということでありました。例えば延長保育ということがございましたが、いま第2保育所の方は最大限6時45分まで延長保育ということでお預かりをしております。これをですね、例えば夜の7時半とかですね、そういうことにするということになりますと、現在の職員の数ではとても難しいんですね。ローテーションが出来ないということになります。かといってですね、これから臨時職員を雇ってそういうことをやれば良いのではないかと、という

ことでありますが、後ほど総務課の方で補足して頂けるとは思いますけれども、なかなか臨時職員はですね、集まってこない、隣りの方ではですね、欠員のまま保育をしているような状況がございます。三春町も間もなくですね、そういう状況が想定されるということで、今のままでですね、更なる延長保育というのはなかなか現状では難しいということがあります。それから、保護者のご心配はですね、例えば風邪を引いていたとか、インフルエンザとかですね、その時にいつから出て良いということはお医者さんの指示がありますけれども、病気のお子さんですので、そのお子さんが昨日まで休んでおきながらですね、預けるという心苦しいお母さんお父さんの気持ちこれにですね、なかなかいま対応することが出来ない。もちろん保育士、医学の知識をですね、かじりながらやっではいると思いますけれども、プロではございませんので、その辺の保護者のニーズにお応えすることはなかなか出来ないという場合がございます。それで民営化の方向を探って行きたいというふうに思っております。

それから、母親のですね、この前の保護者の説明会ですね、なかなか理解を頂けなかった理由につきましてお質しかと思いますが、一番は担任が変わるということですね。民営化になりますと組織が変わりますので、担任が変わると、「せっかく慣れたのに」「あの先生とても良い先生だった」保育所の場合、修了と言いますが卒業ですね、「そこまでお世話になりました」とか、そういうご意見がありまして、それに付随する意見も多々ありました。ということが実態でございます。それで先ほどお話ししたように、顔見知りの臨時の方をですね、雇っていただくようお願いをしたいとそのように思ったり、それから、今お勤めになっている職員の方々をですね、そのまま、町雇いのままですね、派遣するというのも考えて行きたいというふうには思っておりますが、なかなかその辺の理解が頂けなかったところです。

もう一つはですね、指定管理者が決まっておりますので、私どもも「このように指定管理者にお願いしたい」というふうに言うわけですが、「お願いして相手は聞かなかったらどうするか」ということで、なかなかご理解が頂けなかったというふうに判断しております。出来る限りですね、早く指定管理の方をですね、指定すればですね、ある程度のことをですね、じかに保護者に向かってお話し頂ければ、解決できる部分もあるのではないかとこのように思っておりますので、早急に進めて参りたいというふうに思っております。

それから、大きく三点目の将来の幼児教育像と言いますか、それについてお質しかと思いますが、一応8月の定例の教育委員会の中ではですね、先ほどお話ししましたように、今の東西南北の位置関係にある幼児施設については地元という意識もありですね、そのままで良いのではないかと、ただ0歳児から2歳児がですね、ニーズが増えてきているにも関わらず、対応しきれていない部分があるのではにかと思っておりますので、岩江の方で特にそういうニーズがあるというふうに思われますので、あのような説明をいたしました、今後のことにつきましてですね、順次民営化するとかということはまだ考えておりません。それはですね、現在の保育士さんの働く場所がですね、無くなってしまうわけですね、どんどん民営化しますと。そういうこともありますので、なかなか順次やって行くとかですね、毎年次はどこ次はどこというふうにはですね、計画的にやって行くということは難しい状況にあるのではないかとこのように、先ほどのような回答になっております。

人事につきまして、先ほど延長保育のことを言いましたけれども、人事面につきましては総務課の方でお答えいただくようお願いいたします。

○議長 佐久間総務課長！

○総務課長 それでは臨時職員の関係について、総務課所管でございますのでお答えを申し上げます。

現在の臨時職員の採用状況でございますが、保育所幼稚園の募集人員31名に対して応募が31名ということでありました。ただ、内1名が辞退してございまして、現在1名不足しているというふうな状況になっております。現在、ハローワーク等にですね追加募集もしているわけですが、現在まで応募がないと、それで1名足りないというふうな状況でございます。臨時職員としての採用はですね、身分上それから雇用の安定上という観点から見れば好ましくないというふうには考えておりますが、先ほど町長からもお話しがありましたように、行革の一環として平成10年からですね、町の定員適正化計画を定めて、目標値を定めて実行してきたというふうな経過がございます。それと合わせてですね、保育所幼稚園の民営化も一緒に進めて行こうということで進めてきたというふうな経過もでございます。その結果ですね、現在職員の総数であります、平成10年度末で211名だった職員がですね、24年度当初では154名ということで60名程度ですね、減少しているというふうなことでございます。その中で民営化について課題として取り上げていただいて、現在まで教育委員会でそのあり方を検討していただいているというふうなことでございますので、よろしくお願いを申し上げます。

○議長 再々質問があればこれを許します。

佐藤弘君！

○4番（佐藤弘君） 何を聞いたかちょっとあれなんですけれども、教育委員会の答弁、町当局の町長の答弁、私はなんかしっくりしない。しっくりしないと言うのは町長の答弁はですね、明確と言うか明確なんですよね。民営化できるものがあれば民営化をしていく。ところが、教育委員会の話しはですね、民営化が良いんだよ、民営化すればより以上のサービスが皆さんに出来るんですよ、民営化こそというようなのが前面なんですよね。したがって、その話しからいけば良いことであれば次々次々と民営化すべきだろうというのが、保護者の方だってそう思うんです。町長が言うのは、そうではなくて行革絡みもいろいろ含めて、やっぱり民営の活力を活かす。民営で出来ることがあれば民営でしてもらおう。ここはまったく観点が違うところなんですよね。したがって、ここはやっぱりきちっと整理をしてですね、説明する方向付けをしてもらわないとやっぱりこんがらがってくるのではないかと。町長の答弁であれば、そうなのかなと。ただ、そこで更にお聞きしたいと思うのは、民間で出来ることは民間でということで取り組みをしてきて、今回第1保育所を民営化にする。ということは、そういうことで進めて来たから、今後も当然民間で出来るものがあれば進めて行くということだと思うんですよね。第1保育所だけで終わりということではないと思うんですよね。そこがでない。したがって、職員の配置の問題いろいろあって次から次へと民営化することにはならないという、言っていることとやっていることが、どうも計画性がまったくない。確かに職員をどこにやるという問題も当然あるけれども、それに平行して今の職員を年齢的に見ていけば、何年後はどうなるというのは見えてくると思うんですよね。それが第2保育所だけでなく北保育所もいろいろあるんで、次第2だとすれば、第2に臨時者がどれだけ増えてくるのか、一時的に第2に集めたとしても、それが民営化せざるを得なくなるのはいつなのか。ある意味では民営化出来るのであれば民営化をやったりやろうという、そういう方向付けも何も今ないということについて、大きな疑問を一つは持っています。もう一度、町の方向付けと教育委員会の考え方のずれをちょっと直していただきたいなと思いつつながら、この辺については質問をしたいと思います。

更に、臨時者の配置なんですけれども、当然、今までと言いますか、長い間に臨時者が段々

段々行革絡みも含めて増えてきたということがあるので、当然、それらのことについても、大きな責任を持ちながら民営化する際に採用してもらおうと、こういう条件も付けながら移行するよ。こういうことでありますけれども、今後の問題としても全てがその他の保育所、残る第2保育所を含めて全部が職員でやれるということではないと思うんですよね。臨時者もやっぱり使っていかなければならないと思うんですよね。そうであれば、それらのことも一体としながら労働条件も含めてですね、整理を町でやっぱり図って行くべきだろうと。それと一緒に将来的な計画も考えて行くべきだろうと。そして最後に岩江こども園の構想なんですけれども、私は大変良いことだと思うんですけれども、片方民営化だよと言いながら、岩江のこども園は民営化を考えていない。町がやるという考えだとすればその辺もですね、ちょっとおかしいのではないかなと思うんですよね。これ0歳児から5歳児までですから、いま第1保育所は1歳から5歳までで、職員配置で臨時者7、8名使っている。岩江は0歳からですから、同じ120名と言っても保育士の数がぜんぜん違ってくると思うんですよね。したがって、それだけ町で職員の配置ができるかと言ったら、これも半分くらい臨時者にしないとしてもでないがやっていける話しではない。したがって、民営化も含めて検討を私は当然しているのかなと思ったらそうではないということ。この間、そういう話しもあったので、当然民営化も含めて検討されるべきではないかなと思うんですけれども、最後にそのことも含めて答弁をお願いしたい。

○議長 当局の答弁を求めます。

鈴木町長！

○町長 町の考えと教育委員会の考えがずれているのではないかと、こういうふうなお話しでありますけれども、まったくずれてはおりません。それだけ幼児保育というのは難しい。いろんな問題が包含されていると、こういうことで町はいろんな角度から検討をして参りました。そういう中で今回第1保育所を民営化しようということにしたわけではありますが、まず第1保育所を民営化して、そしてそれらの運営状況等をしっかりと検証をしながら次にどこを民営化しようかと、そういうふうにしっかりと順序をおって考えて行かなければならないと、こういうことだろうと思っておりますので、いま現在その他の保育所、幼稚園については考えていないというはそういう意味でありますのでご理解をいただきたいと思います。

なお、岩江幼稚園に0歳児というお話し教育長からありましたけれども、これらも含めて今申し上げたような考え方で今後、検証をしながら取り組んで行くということでご理解をいただきたいと思います。

○議長 佐藤委員よろしいですか。

はい、佐藤弘君！

○4番（佐藤弘君） 答弁になっているようで私からすれば答弁になっていない。というのは教育委員会の議会に対する説明もそうですけれども、保護者の皆さんに対しての説明もまったく同じ中身でやっていると思うんですよね。それは、やっぱり民営化すればこういう良いことがあるよと、こういうことになるよという理由なんですよね、民営化の理由としては、ところが、町長の答弁では行革絡みで民営で出来ることは民営にしてもらおう。しががって、それはサービス向上なのかどうかとは、まったく別の問題だと思うんだよね。ただ、いずれ民営化する時はサービスが低下するなんてことはあってはならないので、今のサービスそのまま行く、更に行った中でサービスが向上されるというのは当たり前のことであって、低下になるような民営化というのはありえない、考え方としてはね、ないと思う。したがって、

そういうことであれば、まったくそうなのかと理解できるんですけども、教育委員会の説明はそのことはまったく無い、そこが無くて民営化すればこういう良いことがあるんだよということなんです、言っているのが。したがって、皆さん民営化することについて一つ理解をしてくださいよ。そこはちょっと違うと思うんです。今の答弁と同じだと言いますが、本当に同じなのかもう一度、教育委員長にそのことだけはきちっとお尋ねをしておきたい。

○議長 佐藤委員、教育委員長ですか教育長ですか。

○4番（佐藤弘君） 教育長です。

○議長 弁を求めます。

遠藤教育長！

○教育長 先ほどのまずですね、第1保育所だけで本当に済むのかということで、第1保育所で例えばですね、7時まで預かるとか、それから看護師さんが入るとか、そういうことになったら他もそういうふうにした方が良くないかということですが、例えば延長保育のことを考えますと延長するお子さんがですね、どれだけいるのかと。ニーズがございまずので、第1保育所をより遅くまで預かるということになれば、じゃ他もということではないですよ。いま現在、5時まで迎える親もいるわけですから。そうしますとその辺ですね、過大なサービスを過剰なサービスに当るものですから、今のところ第1保育所を延長保育すればですね、相当の部分、今の保護者のニーズに応えることになるというふうに思っております。その辺のことをちょっとうまく説明が出来なかったかもしれません。申し訳ございません。

それから、町と考えは同じであります。それで教育委員会としてですね、全体像を議会の方にもお示しいたしました。東西南北でですね、あれにつきましては、一応教育委員会の現時点でのこういう方向だということでありまして、議会の皆様、それからもちろん保護者の皆様とですね、お話しして行きながらですね、より良い全体図を作り上げて行きたいというふうに思っております。その全体像の中に先ほど議員さんが言われました民営化の進めですね、どんなふうに進めて行くのかということも含めて考えて参りたいというふうに思っております。決してこの前私の方から出しました全体像がですね、確定というものではございませんので、これから協議して参りたいというふうに思っております。以上でよろしいでしょうか。

○議長 よろしいですか。よろしくしてください。今後、教育長からも「十分議論を深めて参りたい。そして全体像も作り上げて行きたい。」と言う答弁がございましたので、その辺でご理解をいただいて、今後の協議に期待をいただきたいと思えます。

○議長 5番本田忠良君！質問席に登壇願います。

第1の質問を許します。

○5番（本田忠良君） 議長の許可を得ましたので、通告しておきました事項について質問いたします。

新三春中学校建設に伴う町内業者への工事発注状況についてでございます。

始めに株式会社大林組が新三春中学校建設にあたり、見積り金額の30%、即ち3億8,500万円を町内業者に対し、工事の発注又は物品等の納入を約束した件ですが、先日の町立学校再編等調査特別委員会の開催で現地調査を行いました。現時点で工事の進捗状況を考えて、もう既に随分前から今後の工事も含め業者に対し工事の発注は全て完了していると思えます。6月22日の全員協議会に株式会社大林組より提出されました新三春中学校

建設工事に係る地元業者発注状況についてですが、この内容を見ると、この時点で3億8,500万円の内、90.5%がもう既に発注、若しくは予定されたということですが、そこであくまで私が考える町内業者への発注状況に関してですが、6月30日現在、私が聞き取りしました内容は次のとおりでした。建築業者6社、土木業者12社、電気設備業者4社、給排水設備業者4社、石油業者4社、ガス業者7社、酒店4社、建築資材販売店1社、内装業者2社、建具業者3社、元金外装業者2社、合計49社。この内、石油及びガス店が重複するのがあり実質は46社で、この結果、場内仮設電気及び仮設水道を含めても878万8,000円でした。率にして2.28%。その後、私の調査で抜けていたと思われる業者があり、それは旅館、食堂及び機械リース代で、この合計金額が約230万円。これを足しても1,108万8,000円です。率にして2.88%。これは先ほども申し上げましたが、あくまで私が考える町業者を前提に調査した結果です。

そこで質問ですが、平成22年8月、新三春中学校建設にあたりプロポーザルにより特定者を選定するため、審査項目として条件を付けました評価基準です。500点満点中、提案評価200点の中に町内業者への工事発注割合が60点という高点数でした。このような町内業者への発注という事に対し、高点数を付けた町の目的、そして意図は何だったのかお尋ねします。それと、町の考えている町内業者という定義とはどのように考えているのかお尋ねします。

また、平成22年9月14日、三春町商工会主催による新三春中学校建設受注業者であります、大林組の説明会が三春町役場出席のもと、まほらで行われました。会員40数社が参加し、大林組の地元企業に発注するという事に対し、いかに町内業者の期待感があつたか推し量ることができます。その際に出席者の中より、「発注を受けた町内業者の請負金額について、町は事後調査を行うのか」の質問に対し町としても全体の30%以上が地元企業への発注という点があるので、ある程度のコンプライトチェックは行い、領収書の確認もするとの事でしたが、現在コンプライトチェックは行ったのか、行ったとすれば何社であつたかお尋ねします。

また、株式会社大林組より議会又は三春町商工会に出された技術提案書の中にも、町内業者への発注の実績報告書を町に提出すると言っておりましたが、工事終了後、町は領収書並びに実績報告書を議会の方に提出いただけるのか、提出されないとすればその理由も併せてお聞かせください。

○議長 第1の質問に対する当局の答弁を求めます。

橋本副町長！

○副町長 質問にお答えいたします。

新三春中学校工事につきましては、民間事業者の知識・技術等を最大限に発揮していただくことにより、コストの縮減や工期の短縮を図ることから、設計・施工一括発注方式を採用したものであります。この中で、特定者を選定する方法として、条件付の公募型技術提案総合評価方式を行いました。この方式は、当該工事の事業規模や発注方式などを考慮し、事業者の参加資格に一定の条件を付したものであります。この条件を付したことから、より多くの町内業者が、新三春中学校建設工事に参加できる機会をつくることと、更に町内業者の育成という観点から、工事参加の割合を評価することにしたものであります。

次に町が考えている町内業者とは、町内に本店または支店、営業所等を有するものとしております。これについては、以前から同じ考え方で実施しております。

次に町内業者への発注実績であります。仮設工事費として町内8社に約780万円。こ

れは実績であります。また、本工事費としては、町内3社と約3億6,400万円の契約が締結されております。更には宿泊代や食事代として、町内24店舗に約600万円の支払いの実績となっております。7月時点での合計は、約3億7,780万円となっております。この内、工事関係の契約につきましては、大林組から届出された下請関係者の施工体系図及び請書により確認をしております。

次に工事終了後に領収書及び実績報告書を議会に提出するのにかんしましては、民間事業者間の商取引に関することでもありますので、差し控えさせていただきたいと思っております。

以上であります。

○議長 再質問があればこれを許します。

本田忠良君！

○5番(本田忠良君) ただいまの答弁ですが、目的と意図がちよつとあれだったんですが、私としての考えなんです、目的というのは結果的にスーパーゼネコン、大林組さんはスーパーゼネコンでありますので、世界にも名立たる建設業者ですので、こんな例えばですね、三春中学校をやる時に地元の業者を使ってもらえれば、凄い技術力又は管理の能力、下請の使い方等をかなり勉強させてもらえるのではないかなと、そういう意味では三春の建築の業者のボトムアップにつながるのではないかなと、そういうものが目的であったのではないかなと思っております。また、意図としてはですね、この受注金額の30%、即ち3億8,500万円が町内の業者に発注されて、そのお金が町内に3億8,500万円落ちれば、物凄い経済効果になったのではないかなというふうに思います。お金が落ちれば人が動く、人が動けば物も動く、その人と物とお金が動くことによって経済効果というのができるのではないかなというふうに思います。それが私は意図ではないのかなと私個人的には思っております。

それから、町内業者の定義でございますけれども、これは大林組さんからいただいた下請通知書ですか、あれを見ますと一次下請、二次下請、三次下請、一次下請が32社、二次下請が68社、三次下請が10社、合計110社なんですよね。それで今、副町長が述べましたように町内業者3社という話が出ましたけれども、確かにこの3社名前が載っています。ところが、これは俗に言う郡山に本社があつて郡山の本社の何々営業所というのが一つ。もう一つは郡山に本社があつて同じく何々三春営業所というのが一つ。もう一つの会社は鉄筋屋なんですけれども、一次下請が郡山に入っている大手の鉄筋屋さんなんですけれども、そして二次下請に三春の業者が入っているんですが、この二次下請に入っている鉄筋の会社が12社あるんですよ。そうすると三春に入っている会社というのは12分の1なんです。そうして、お金の例えば売り上げにしても営業所、出張所これはみんな本店に行っちゃうんですよ。ということを考えれば、三春にまったくお金が落ちていない、そういうことになるんじゃないんですかね。そこで今まで問題だったのは町内業者の定義ということなんです。町内業者の定義を私は、まず三春町の指定業者、もう一つは本店の機能がある三春町に在住しているそういう会社。もう一つは商工会に入っていると、少なくとも支店、支店はかまわないと思うんです。営業所と出張所ではお金はまったく三春に落ちない。これを是非ですね、今後、行政としても営業所と出張所はちよつと考えて欲しいと思っておりますけれども、その辺の考えをお聞きしたいと思います。

すいません。ちよつと聞き忘れたんですけれども、コンプライトチェックは言っていましたか。再質問でもう一回聞きます。

○議長 当局の答弁を求めます。

橋本副町長！

○副町長 再質問にお答えいたします。

議員さんが言われましたですね、今回の発注で目的とかですね、それから地元への貢献度と言いますかね、その考え方は町もまったく同じであります。ただ、結果的にそういう方々が二次なりそういうことで請けられたということであって、考え方は町もそういうことでこういう方式を採用したということでもあります。

2点めですね、定義につきましては、今議員さんからありましてように本店、営業所がある中で営業所についてはというご意見もありましたので、今後ですね、それらがどうあるべきかというのは、今回の結果等を踏まえて町の内部でも検証はしたいというふうに考えております。

3点目ですね、チェックの方法なんですけれども、先ほど言いましたようにですね、物を買って支払ったものについては、例えば仮設工事のようなものについては実績として確認しております。それから、まだ工事中でありますので工事が終わっていない本工事等については請書等で確認しております。それから、最後の店屋から購入し支払ったものについては領収書等で確認しております。

以上であります。

○議長 再々質問があればこれを許します。

本田忠良君！

○5番（本田忠良君） この町内業者の定義というのは大変大切なことだと私は思っているんですけれども、この町内業者の定義によって町に落ちるお金がまったく違ってくるわけなんですよね。それでこれ私一人で決められるものでは当然ないもんですから、議会と行政とで町内業者という定義をですね、話し合う検討するような場をこれから設けていただけるのかどうか質問いたします。

○議長 当局の答弁を求めます。

橋本副町長！

○副町長 ただいまのご質問は議会と町とということですので、議会と町のことについては議会とこれから相談させていただきたいと思っております。

以上です。

○議長 第2の質問を許します。

○5番（本田忠良君） 続きまして、町内除染廃棄物仮置場の設置についての質問に入らせていただきます。

昨年3月の東日本大震災により、東京電力福島第一原子力発電所の水素爆発により福島県は放射能によって汚染され、三春町も同様に被害を受けました。除染は町民の皆さんのためにも早急に行わなければなりません。それには除染廃棄物の仮置場が不可欠であります。旧町内におきましてもこの仮置場が沼ノ倉大久保地内に計画されておりますが、今までこの沼ノ倉の皆さんにはゴミ焼却場が近くにあり、その煙突から出る煤煙等で長い間に渡り、そして一本松の皆さんには終末処理場設置と多大な迷惑をかけて来ているのが実情です。

もし、この地区の皆さんの仮置場設置に理解が得られれば、3年後か遅くとも5年後くらいにはなると思いますが、この除染廃棄物は全て中間貯蔵施設の方に運ばれるわけです。その跡地の利用について、今まで近いほど被害の大きかった方達が、今度は近ければ近いほどメリットのあるような利用の仕方を行政と地元の人達と一緒に考えるべきと思いますが、町の考えをお聞かせください。

○議長 第2の質問に対する当局の答弁を求めます。

鈴木町長！

○町長 2点目についてお答えいたします。

三春町では、三春町除染計画の策定にあたっては、町と議会と各行政区長で構成する三春町自主防災会連合会の三者が協力して作成いたしました。

また、仮置場については、地域の実状に精通した各区長会にご尽力頂きながら設置することといたしております。現在、全町内7地区のうち、4地区、計2ヶ所の仮置場が決定いたしました。残る3地区についても、検討・協議が続けられております。今後も、一層のご理解ご協力をお願いする次第であります。

さて、私達が日々排出するゴミやし尿は、当該施設で適正に処理しており、今後も周辺の皆様にご迷惑をかけないよう関係法令のもと適正な管理を続けて参りたいと思います。

次に仮置場の跡地利用についてであります。既に設置が決定している地区においても、まずは除染を優先し、跡地利用については、今後の検討事項としております。八幡町を含む三春地区では、現在も協議が続けられております。様々な意見がある中で仮置場設置などの恩恵として、跡地利用案を提示することは、かえって誤解を受けかねないというふうに思っております。今は仮置場の必要性について、ご理解を頂き、一日も早く除染を進めることに全力を傾けて参りたいと考えております。

○議長 再質問があればこれを許します。

本田忠良君！

○5番（本田忠良君） 沼ノ倉大久保地内における仮置場の件なんです。区長会と議員とで「何とかしてください」という話しは私も聞いておまして、私も7月21日、22日、23日、8月11日と4回ほど区長と地元の話し合いに出席しましたけれども、沼ノ倉の八幡町3区についてでありますけれども、その前区長の話をちょっと聞きますと、昔のゴミ焼却場があったころはですね、その昔の話しを出されまして、あの集会所で告别式があり、そして三日七日の料理をずらっと並べた時に1台のゴミ収集車が前を通ったその後、ちょっと暑かった時だと思うんですけども、通った後、今度はハエが部屋に入ってきて、そのハエを外に出すのが大変だったということをお話しておられました。昔、そういう大変な時期を過ごして、そしてやっとゴミ焼却場がなくなって、ほっとしたところに今度仮置場ということが持ち上がったものですから、多分、沼ノ倉の人達もちょっと感情的にはなっているかも知れないところありますが、そういった昔からの歴史的なものがありますので、是非ですね、地元のために何かなるようなことを当局で考えていただく方法を何か模索していただきたいと、このようなことを考えられないのか。もう一度、答弁をよろしくお願いします。

○議長 当局の答弁を求めます。

鈴木町長！

○町長 仮置場の設定につきましては、非常に難しい状況下にあります。これは問題が問題なだけにですね、多数決で決められるものではありません。やはり、地区の皆さん方の全員の合意と言いますかね、それがないと簡単に仮置場の設定は出来ないと、それだけ難しい状況の中ですね、何かアメを与えるようなね、そういうことを前もってするということが、いかがなものか。これを我々はしっかり考えなければならぬだろうと、こういうふうに思っております。しかし、いずれにしてもですね、何年先になるか分かりませんが、土地利用については、町の基本的な考え方として、その地域の皆さん方の希望するような土地利用というのは、この仮置場に限らずですね、全てそういう方法で取り組んでいるということをご理解いただきたいと思います。

○議長 再々質問があればこれを許します。

(ありませんの声あり)

○議長 11番小林鶴夫君！質問席に登壇願います。

第1の質問を許します。

○11番(小林鶴夫君) 議長の許可により、先に通告した3点についてご質問いたします。

始めの質問は、新三春中学校は来年4月に開校いたしますが、そのスクールバスとして運転手を除いた定員44名の中型バス2台、同じく定員28名のマイクロバス4台、計6台を購入するための議案が本定例会に提出されております。スクールバスとしての運行は、新三春中学校開校準備委員会等で検討されていると思いますので、質問はスクールバスをコミュニティバスと、いわゆる地域の路線バス他に活用することについて質問させていただきます。

このスクールバスの運用に伴って、現在の町営バスさくら号の路線が廃止すると聞いております。スクールバスに関しましては、新三春中学校遠距離通学に関する教育懇談会として、平成22年の暮れから翌年の1月にかけて、現状で存続する岩江中学校のある岩江地区を除いた行政区で開催されました。この懇談会の席上、町からスクールバスは通学や小中学校の教育活動に利用する意外に平日や土曜日曜日に多目的に利用したい方針が出され、現在の町営バスさくら号は、車の老朽化もあって廃止の方向としたいと、スクールバス兼コミュニティバスとして運用を含めた利活用が可能かどうか、各まちづくり協会に検討を依頼するということでした。各まちづくり協会の検討依頼以前にですね、この遠距離通学に関する教育懇談会の席上、コミュニティバスとしてもいろいろな意見や要望が出されております。

1番目に、スクールバスをコミュニティバスとして、運用を含めた利活用を各まちづくり協会に昨年の3月末までに依頼すると聞いておりましたけれども、正式に依頼してですね、各まちづくり協会からアイデア、意見、要望等が集約されているのかどうかというのが1点。

2番目に、以前実施しました遠距離通学に関する教育懇談会や、やられたと思うまちづくり協会の意見の要望が集約されてスクールバスをコミュニティバスとして利活用する具体案が町としてまとまっているのかお聞きいたします。

3番目に、スクールバスの運行は専門会社に委託になると思いますが、コミュニティバスは遠距離通学に関する教育懇談会の席上、町からは運転手も地域から出して欲しい旨の発言がなされた記憶があります。コミュニティバスの運転やその管理はどのようになさるのか教えていただきたいと思っております。

4番目に、町営バスさくら号が廃止になりますと朝晩の三春駅や三春病院等への行き来が更に不便になるのではないかと思いますけれども、それに対する対応策が出来上がっているのかお伺いいたします。

5番目に、スクールバスの運行がない岩江地区等でコミュニティバスとして利活用の要望が出されましたら、それに対して対応が可能かどうかお伺いいたします。

今回、新規に購入する6台のバスは名実ともに三春町の足となると思っております。町営バスに関しましては、1年前の9月定例会で今の6番議員が町民の高齢化が進んでいるので町営路線バスの見直しについて質しております。その中で公共交通のあり方はベストを求めて取り組むと答弁されております。それから1年が経ちました。車の運転できない高齢者や町民が親しく利活用できるようなご答弁をよろしくお願いたします。

○議長 第1の質問に対する当局の答弁を求めます。

工藤住民課長！

○住民課長 1点目のスクールバスのコミュニティバスへの活用についてお答えいたしま

す。

1つ目のまちづくり協会への検討依頼ですが、平成22年度に各地区まちづくり協会バス運行を検討いただきましたが、年度末の震災で十分な検討ができないまま中断いたしました。このため、2つ目の質問にございました、地元からの意見、要望をまとめた具体案はありません。しかし、さくら号は老朽化しており、廃車時期が迫っているため、町では、これに代わるものとして、来年度からスクールバスの空き時間を利用したコミュニティバスを運行することといたしました。

3つ目の運行方法ですが、スクールバスと同じく専門業者への委託を予定しております。

4つ目でございますが、さくら号の現在の車両は廃車いたしますが、バス運行は継続いたします。利用可能なバス台数も増えることから、運行時間帯や運行便数の改善にも努めて参ります。

5つ目についてですが、現在、コミュニティバスが走っていない岩江地区につきましては、利用目的や行き先などの実態や要望をお聞かせいただきながら、検討したいと思っております。

以上のような考え方を町内部でまとめ、現在、各区長や町づくり協会長に次説明させていただいております。ご質問の最初にございました、地区におけるコミュニティバスへの利活用や運行につきましては、今後も検討が必要と考えており、進め方については、改めて議会に報告させていただきます。

○議長 再質問があればこれを許します。

小林鶴夫君！

○11番（小林鶴夫君） 今の答えですと昨年の震災のためにですね、検討が中断しているというお話ですがございますけれども、けれども各区長さん等々をお願いをしているということ、そうしますと、コミュニティバスとしてこういうふうに行きまわりますよというたたき案がですね、いつ頃できるのか。特にスクールバスは朝、通学時1回、夕方下校時それから部活が終わってから2回、今のご答弁ですと日中の運行が主体になるということですのでけれども、やっぱり町民は非常に気にしていると思われまふ。先ほどの三春駅への便、それから町内の病院への便、それから三春病院等への便ですね、それらのいわゆる具体的な案が出来るのはいつ頃になるのか。もう既に中学校の開校は4月に迫っておりますので、早く町民は知りたいと思っておりますので、その点具体的にお聞かせ願います。

○議長 当局の答弁を求めます。

工藤住民長！

○住民課長 お答えいたします。

現在、先ほど申し上げたとおり、各地区にまずは素案という形で説明をさせていただいております。したがって、素案というからには、ダイヤの主なところのあらましは当然お話しをしなければ話しになりません。私の方で現在考えているのは、スクールバスは朝の登校時7時から8時まで、あと夕方の4時から6時半くらいまでがスクールバスの運行かなと思っております。その空いている時間、日中は当然ございますが、朝晩も空きます。つまり、7時前も空くということになりますので、私どもの現在のたたき台としては、各地区へ子ども達を迎えに行くために、車庫から回送バスとして出ますので、その内の1便を三春駅に接続すれば7時台の列車に間に合うのではないかというふうなたたき台を提示させていただいております。詳細な何時何分発というところまでは、まだ煮詰まっておりますが、路線あるいはあらましとしてはそのようなことを考えております。同じように夕方、6時半過ぎにはスクールバスが空きますので、夕方7時くらいにお帰りになる方も相当いらっしゃると思

いますので、そちらの駅の方から各地区へという便も当然、検討してございます。あと、日中です。ご指摘にありましたとおり、買い物関係、通院関係につきましては、現在のさくら号ではなかなか行き届かない点があります。私どもが提示させている案としては、旧町内、三春駅、三春病院、後は三春病院から四つ角、三つ角を通過、最終的には踊り場からグラウンド方面へ行くという路線が、もしあるとすれば、その沿線にはかなりの数の医療機関、薬局等がございますので、そういった路線を新たに設けて利便性を向上させたい。こういったお話しを持ちまして、地区の方におじゃまさせていただいております。したがって、基本は現在のさくら号を基本とするものの、今の段階で改善できるのは町としての考えとして改善させていただきまして、そういったものをなるべく早く、出来れば来年度予算に繁栄するものですから、時期的に逆算すれば秋ぐらいにはかなりの具体化をしておかなければ間に合わないということになりますので、改めてその際にはご説明できるようにしていきたいというふうに考えております。

以上のとおり、素案としては検討してございますので、ご理解をお願いしたいと思います。

○議長 再々質問があればこれを許します。

(ありませんの声あり)

○議長 第2の質問を許します。

○11番(小林鶴夫君) 2番目の質問は、桜川河川改修の今後の予定や景観保存等についてお聞きします。

一見したところ川幅もさして広くない桜川ですが、国の一級河川であり、過去の集中豪雨等で度々大きな被害となっていることから、平成11年度に国の公益機関、河川改修事業として認可となり、県が事業主体となって長年工事が進められております。その改修工事が平成20年度から、福島県における土木事業の最重要事業として取り組むことが決定し、概ね5年を目途に日本化学の入口交差点の上流、約2.7キロ、八幡町からいわゆる旧町内の改修が始まったわけでございます。旧町内の改修にあたりましては、大学教授を含めた桜川景観検討委員会が平成20年の10月から22年の2月にかけて5回ほど、それと並行して桜川景観・まちづくりワークショップを県中事務所が主体となりまして、町の建設課や多くの町民が参加して平成20年10月から22年の2月にかけて7回開催されております。その過程で多くの貴重な意見が出されております。インターネット上です、県中事務所がまとめたですね、桜川景観デザイン検討の概要というのが、ここに手元にもございます。インターネット上でございますけれども、こういうふうです、中間ですけれども過程が公開されております。ワークショップでの多くの意見は、城下町として今でも残されている江戸時代の石積みや古い樹木等を残して、昔ながらの景観を保存して欲しいという意見が大変多かったと思います。一方、先般ですね、駐車場の確保や賑わい拠点づくりのためにですね、福祉会館前の駐車場の桜川に蓋かけをする提案もされた経緯もございます。一方、三春町公共施設整備検討委員会ではですね、現在の役場庁舎の建て替えが答申され、その具体化の検討が始まりました。現在、桜川の改修はいろいろな問題に直面しているのが実態でございます。

1番目に、桜川の改修工事は計画通り進んでいると考えてよろしいのか。当初は平成24年度完了の予定でしたが、その後、1年くらいはずれ込む見通しと聞いておりますけれども、遅延しているとしたら、その大きな要因は何だったのかということ。その対策とですね、完了時期が分かりましたらお聞かせください。

2番目として、町の玄関口ともいえる役場やですね、自由民権広場等の周辺の全体的なイメージデザインが出来上がっているのか。役場の建て替え等でですね、出来てないとすると、県中事務所等いつ頃にこのデザインがまとまるのか分かりましたらお聞かせください。

3番目に、桜川景観デザイン基本方針にも記されておりますが、城下町としてのおもむきを損なわないようにするためにですね、護岸にある自然石を用い江戸時代の物とされている石積み等を再利用する方針となっておりますが、現在までの護岸の工法は経済性が優先されたものとなっております。これからの護岸工事では、昔からの自然石の利用がどの程度活用されるのか。城下町としてですね、歴史や景観を保つような配慮がなされているのかお聞かせください。

4番目に、工事は県が主体ですが、予算は国で賄われております。この桜川河川改修に伴って、町としての支出実績と今後の予定額が分かりましたらお伺いいたします。

5番目に、改修後の清掃や美化活動はどのように進められるのか、心配しております。改修を終えたですね、下流の川床には既にですね、雑草が目立っている箇所が何ヶ所か出始めております。これらをですね、近隣だけに頼むというのも限界があると思います。そのたびにですね、町としての予算も必要なんじゃないかなと思いますけれども、そういう考えがあるかお伺いいたします。

○議長 第2の質問に対する当局の答弁を求めます。

伊藤建設課長！

○建設課長 質問にお答えいたします。

1つ目のご質問ですが、桜川河川改修事業は、市街地部2、760mを最重要区間として平成20年度に事業着手されました。事業費約60億円で概ね5年での完成を目標に事業は進められているところでございます。事業着手以降、毎年約10億円の予算で事業が進んでおり、予算的には来年度で完了になる予定でございますが、工事に関しましては、繰越工事となることが考えられ、工事完成は平成26年度になる見込みでございます。

2つ目のご質問ですが、役場脇駐車場を中心に、三春の玄関拠点の整備を検討していましたが、現在は役場庁舎建替えの候補地として検討を進めていることから三春の玄関拠点の整備検討は実施しておりません。

3つ目のご質問ですが、既存護岸の自然石の利活用につきまして、検討は進められていますが、現時点では利活用は出来ておりませんが、今年度工事予定区間の一番館裏で既存護岸を復元する工事が予定されております。今後も可能な限り既存護岸の利活用について福島県にお願いして参ります。

4つ目のご質問ですが、桜川河川改修事業は、社会資本整備総合交付金事業として福島県が事業を進めているもので、これまでの工事に係る費用は福島県50%と国50%の負担となっており、三春町の負担はございません。ただし、河川改修に合わせ既存の町道橋を拡幅して架け替える場合、拡幅分は道路管理者の負担になることから、今後、町道橋架け替えに伴い拡幅が必要となった場合には町の負担が生じることになります。

5つ目のご質問ですが、桜川の河川清掃や美化活動は、これまで河川クリーンアップ等として地域の皆様にお世話になって参りました。河川改修後もこれまで通り地域の皆様にお世話になりたいと考えております。

以上でございます。

○議長 再質問があればこれを許します。

小林鶴夫君！

○11番（小林鶴夫君） 今のご答弁ですと改修の最終は26年度くらいになるということ理解いたしました。その間、ちょっと遅れた大きな要因がですね、分かりましたら教えていただきたいと思います。

それから、2番目のですね、いわゆる役場、民権広場、俗に三春の玄関口になるんだよと言われているこのデザインが、まだ実施されていないということですが、これはやはり県中事務所が主体になると思うんですが、どの程度町がですね、この辺に関してですね、意見を述べられるのか。ちょっとそこいら辺が気になっております。三春を代表する景観の場所になると思いますので、そこいら辺の様子が分かったら教えていただきたいと思います。

それから、自然石、昔からの石の利用ですね。これはですね壺番館のを利用すると、嬉しいご答弁をいただきましたけれども、やはり、これも町としてですね、相当目を光らせてないとですね、何か最近のブロックを積重ねている工法になっちゃうんじゃないかなという心配がありますので、是非これはですね、県中事務所にもう1回ですね、どういうふうになっているのかお聞きしてですね、我々にもご提示願いたいと思っております。

それから、予算については理解しました。

後ですね、美化の問題なんですけれども、正直言って、今下流の方には相当雑草が生えて、ちょっと川をのぞくと正直言ってちょっと見苦しい感じもあるんですね。地域にお願いすると言いつつもですね、なかなかこれは大変な問題ではないかなと思っております。それで、私ちょっと調べたんですけれども、福島県のホームページを開きますと「うつくしまの川サポート制度」というのがございました。この制度の利活用について、町として知っている範囲でお聞きしたいと思います。

○議長 当局の答弁を求めます。

伊藤建設課長！

○建設課長 1つ目の事業が遅れている要因というお話してございましたが、ほぼ計画通りの年度で事業の方は進んでおります。ただ、河川工事の場合、夏場の降雨時期ですね、雨が降る時期は避けて工事を発注するものですから、どうしても秋口の発注ということになります。そうしますと、工事内容が大変多く、繰越しということになってしまうものですから、翌年度まで工事を行っているということがありますが、全体事業としては、ほぼ予定通り進んでおります。

それから、2つ目の玄関口の整備ということでございましたが、以前ボックスカルバートを今の役場脇のところに設置したいということで、絵柄等は書きましたけれども、そちらにつきましては、役場庁舎という方を最優先するということになりましたので、そちらの計画は今なくなっておりますので、計画図等についてはありませんということになります。

それから、自然石につきましては、本年度約10m区間で実施されるということでありませぬ。なお、今後については、出来る限りお願いしたいということで県の方に話しをしたいということでございます。

それから、4番目の美化活動でございますが、今は工事中という事もありますし、また原発事故の放射線の関係で、なかなか地元の皆さんにクリーンアップ作戦等を実施していただけないという状況がありますが、今後とも引き続き地元をお願いはしていきたいと思っております。それから、川のサポート制度につきましては、現在ありますけれども、三春町では実施しておりませぬ。ただ、舞木地区の桜川をきれいにする会の皆さんについては、県の方

の保険の対応に登録していただいて、川の方をきれいにさせていただいております。

以上でございます。

○議長 再々質問があればこれを許します。

小林鶴夫君！

○11番（小林鶴夫君） 完成後の美化清掃活動についてですね、先ほどこれから大変になるなということですね、町としてある程度の予算を付けないと地域だけでは大変ではないかなと、実は私も岩江地区の河川の清掃、ボランティアとして参加しておりますけれども、これを今後、続けて行くということもですね、本当にもうボランティアだけでは済まなくなって来ているような気もいたしますので、そこら辺のですね、ちょっと考え、まったくもう予算は町として出ないんだよということなのか。いや、多少考えられるのかということもお聞かせ願います。

○議長 当局の答弁を求めます。

伊藤建設課長！

○建設課長 河川につきましては、県が河川管理者でございますので、県の方と協議をしたと思います。

○議長 第3の質問を許します。

○11番（小林鶴夫君） 最後の質問は原子力発電に対する町の方針についてお伺いいたします。

3. 11 東日本大震災、それに伴う原発事故から1年半になろうとしております。絶対安心と言われ続けてきましたですね、原子力発電がですね、一度事故を起こすとその被害の甚大さはまったく想像すら出来なかったと思います。三春町でもですね、生活圏の放射線量を下げのためにこれから本格的な除染作業を行わなければならなくなっております。26年前にですね、当時のソビエト連邦のチェルノブイリでですね、大気に放出された放射線量が今回の東京電力事故の5倍前後という大きな事故が起きております。その当時、日本の原発は、日本の原発は大丈夫だという安心神話のためにですね、当時も具体的な対策が何も取られなかったと言われております。チェルノブイリではですね、放射能を防ぐため直後にコンクリート製のいわゆる石棺という物を全体で覆い、それも26年経って古くなっているということで、放射能が漏れてきているということで現在ですね、それを更に覆うために高さ100mの鉄製ドーム、東京ドームみたいなものですが、現在作っているようです。それでもそのメンテナンス費用を含めて膨大な費用をかけても、その鉄製のドームはですね、寿命は100年と聞いております。福島原発もですね、廃炉までに30年とか40年と言われておりますけれども、メルトダウンした放射性の燃料棒がどのような状態になっているのか分からないので、もっと時間が掛かるのではないかという学者もおります。このようにですね、原発事故は一代位では収束できない。昨年暮れに野田総理大臣が東京電力の原発事故は収束されましたと、ちょっと12月の末だか言っておりましたけれども、私はとんでもないことだと考えております。

このような中ですね、去る6月27日に東北電力の株主総会が仙台で開催されました。三春町は東北電力の株主になっておりましてですね、現在約1,800株ほどを有している様ですが、東北電力はですね、浪江町とですね南相馬市の小高区に新しい原子力発電を計画しておりまして、東北電力のホームページを見ますと平成28年に着工して、33年に運転開始の予定というふうにホームページ上では載っております。これをですね、白紙撤回

求める議案がですね、この株主総会に出されました。福島県やお隣ですね郡山、田村市は撤回案に賛成しておりますけれども、三春町は賛否の態度を示さなかったということがですね、翌日の28日の新聞に出ておりましたので、ちょっと私も疑問に思っておりました。なぜ、町はですね、近隣と同じく原発撤廃に賛成しないで態度を保留したのか、そのわけをお聞かせ願いたいと思います。

2番目に、この議案の他にですね、原発運転の再開条件、再生可能エネルギーへの拡大投資の議案も出されているようですけれども、この2議案の具体的な内容をちょっと教えていただきたいと思います。この議案に対して、町はどのような賛否、態度をとったのかをお伺いしたいと思います。

○議長 第3の質問に対する当局の答弁を求めます。

村上財務課長！

○財務課長 お答えいたします。

三春町は現在、東北電力の株式、ただいま数字ありましたけれども2,779株所有しております。

6月の株主総会では、ご指摘のような3件について株主提案がなされました。その議案の内容についてですが、1件目が、計画している浪江・小高原子力発電所の建設計画を白紙撤回すること。2件目が、福島第一原子力発電所事故の知見を生かした新たな安全基準による審査、緊急防護措置計画範囲内の自治体の防災計画の策定及び安全協定の締結を行うまでは、女川原子力発電所及び東通原子力発電所の運転再開を行わないこと。3件目は、再生可能エネルギーに関しまして、再生可能エネルギーの投資を拡大すること、新設電源は全て再生可能エネルギーとし、財政ひっ迫の折、財源は原子力発電及び再処理事業への投資を回収して当てること。以上がその内容であり、それらを定款に規定するよう求めたものであります。

総会におきましては、この3件はいずれも否決されております。この3件について、町はいずれも賛否を保留致しました。その理由は、まず、原発の再稼働、建設計画の白紙撤回については、国においてエネルギー政策の見直しが進められているところであり、これらに関する国民的議論を踏まえて、総合的に判断すべきでないかということ。それから、再生可能エネルギーの積極的な導入については、提案されたような新設電源を全て再生可能エネルギーにすることは、電力の安定供給、経済性の面で可能なのか、このような点などについての判断材料が乏しい状況にありました。

また、そもそもこの種の問題について町が意思表示し、公に発表する場合には議会などとの議論が不可欠と考えておりますが、その時間的余裕もありませんでした。それらのことを総合的に勘案致しまして、株主提案の案件については、賛否を保留したものであります。

○議長 再質問があればこれを許します。

小林鶴夫君！

○11番(小林鶴夫君) 今のご答弁で大体の様子は分かりました。ただですね、福島県で起きたこの原発事故、私が言うまでもなく今も県民が苦しんでおりますし、県やですね、県議会でも県内の原発は廃炉を決めているという状況ですので、なんかちょっと矛盾するなという気がいたしました。原発事故はですね、命や健康を脅かしてですね、暮らしや家族の心までも引き裂くというような状況が、非常に苦しい事故になりますので、この原発事故、現在、政府がエネルギー問題でいろいろ検討しておりますけれども、難しい問題であることは

分かりますけれども、今後、どのようなことがクリアされれば、全部廃止というふうになるのか。もし、何か考えがあったらもう1回お聞かせ願いたいと思います。

私はですね、日本の陸地というのはですね、世界の0.26%、俗に0.3%しかない。そこに世界の原発の10%、要するの50基ですね、50基がある。世界の地震の20%が日本で起きてるということを知ってからですね、日本では本質的に原発は無理ではないかと、いつかまたこの様な事故が起きるのではないかとということですね、ちょっと心配して、こんなこと心配してもしようがないのかも知れませんが、心配しております。どうことがクリアされれば、町として全廃に賛成されるのか、もし考えがあったらお聞かせ願います。

○議長 お考えがありますか。

村上財務課長！

○財務課長 原発事故、これだけの苦しみを我々が味わっているわけですし、現在も避難所等で苦しんでいる方が多くいるわけです。そういったことで、原発の再稼動なりをですね、望む県民というのは、ほとんどいないんだろうというような認識は持っております。

議員の方からは、どういったことがクリアされればという話しですけども、結局町の方で原発反対とか、そういうことについて意思表示するという、その必要があるのかどうか。それは、議会の方と町と協議をして決めていくことではないかなというふうに考えております。

○議長 再々質問があればこれを許します。

(ありませんの声あり)

○議長 非常に微妙な時間で、議長苦慮しておりますけれども、午前の部はこれで打ち切りたいと思います。なお午後の再開は午後1時といたします。暫時、休憩いたします。

……………・・ 休 憩 ・……………

(休憩午後11時51分)

(再開午後 1時00分)

……………・・ 再 開 ・……………

○議長 それでは、休憩前に引き続き再開をいたします。

○議長 14番渡邊勝雄君！質問席に登壇願います。

質問を許します。

○14番(渡邊勝雄君) 議長の許しを得ましたので、通告しておきました事項について一般質問をいたします。

今年に入り、全国各地で登下校の児童らを巻き込んだ通学路での痛ましい交通事故が多発していることは周知のとおりであると思います。未来の宝である子どもたちの命に関ることだけに通学路の安全対策は、最重要課題であると思っております。その上で、新三春中学校通学路の安全対策等について3点伺います。

1点目でございますが、新三春中学校が平成25年4月開校するわけですが、目に見えてこないのが国道、県道、町道の通学路の整備であります。通学路については地域の教育懇談会の中でも、意見、要望されていることは承知のことと思っておりますが、新三春中学校の開校が近づくにつれ、地域の方々から「通学路はどうなんだい。」という心配の声が聞こえております。その通学路等の整備の整備状況について詳細に伺いたいと思います。

2点目でございますが、スクールゾーン、いわゆる学校の通学路指定区域整備等による自動

車規制の強化は、警察や地域の各団体との連携が最重要である私は思うのであります。その進捗状況について伺いたいと思います。

最後になりますが、児童と保護者を含めた交通安全教育、通学路の安全対策等は先にも申し上げましたが、子どもの命を守る重要課題であるわけでありまして。その実施状況について伺いたいと思います。

○議長 質問に対する当局の答弁を求めます。

伊藤建設課長！

○建設課長 1点目の新三春中学校の通学路等整備の進捗状況についてでございますが、国県道につきましては、県道谷田川三春線の貝山字岩田及び井堀田地内、それと県道飯野三春石川線の南町・山中地内と込木地内について歩道設置を県の方に要望しております。この内、県道谷田川三春線は貝山字岩田地内から町営運動場入口の区間について、現在、調査設計が進められております。

また、県道飯野三春石川線の南町・山中地内は桜川河川改修に伴い、新町橋の架け替えが行われる予定でございます。いずれの県道も、歩道工事着工は平成25年度以降の予定でありまして、新中学校開校までには間に合わないため、引き続き強く県の方に要望をして参りたいと考えております。

次に、町道等の整備であります。現在の歩道設置ヶ所を有効に利用するため、町営野球場北側の国道288号バイパスから、町道町営運動場線へ接続できるよう、歩行者専用の通路を今年度中に整備する予定であります。

その他、町道八幡町貝山線は道路外側線の明示等により、歩行者の通路を確保する計画でございます。

以上です。

○議長 橋本教育課長！

○教育課長 2点目の質問にお答えいたします。

まず、新三春中学校のスクールゾーンについては、平成25年4月の三春西バイパス開通にともなって、学校周辺での通過交通車両も増えるものと思われまして。このため、県道飯野石川線楽内地内から県道谷田川三春線へつながる町道町営運動場線については、時間帯を設定した車両の進入規制等について、関係各機関と協議して参りたいと考えております。

3点目の質問についてお答えします。

小学校での交通安全対策については、新年度当初と夏休み明けの時期に田村警察署のご協力を得て、交通安全教室の実施や、実際に校庭において横断歩道の正しい渡り方や自転車の安全な乗り方などをご指導いただいております。また、登下校時には地域の方々や子ども見守り隊の方々によって、交通安全対策とともに不審者等への警戒対応についてもご協力いただいております。

なお、中学校では各校で警察署のご協力をいただき、特に自転車の事故防止を中心に交通安全教室を実施しております。議員お質しのとおり、子どもの安全を守ることは何よりも最優先すべきでと見え、今後も関係機関との連携を強化し安全対策を図っていく所存であります。

以上でございます。

○議長 再質問があればこれを許します。

渡邊勝雄君！

○14番（渡邊勝雄君） 1点目なんですが、国県の道路につきましては、25年度以降の

完成となるということではありますが、子どもたちの安全を図るための対策は本当に重要なものでありますが、だいたい見通しとしては25年度中の完成は無理というようなことではありますが、早急にですね、これは町全体が新しい中学校に通学するわけで、今までの態勢とは非常に通学の環境が変わるわけですね。そういうふうなことから、特に通学路に対して万全の対策を取っていただきたいということで、国県の通学路の完成の見通しを伺いたいと思います。

またですね、通学バスとか子どもたちの自転車とか徒歩での通学が予定されるわけですが、通学バスの例えば乗り降りの場所とか、自転車や徒歩の通学路等、徒歩が一番危険なわけですが、その数等は大体把握していると思いますが、伺いたいと思います。

それと2点目、この指定区域、先ほども言われましたように指定区域の整備、これはですね開校まで、町道・県道これは早急に連携してですね、対策を立てて万全な態勢で望んでいただきたいと。

3点目になりますが、児童と保護者を含めた交通安全教育と私申し上げたおりましたが、県内でもですね、今年ですか、学校の敷地内で子どもを送って行った際に事故があったというようなことが報道されております。父兄が児童を送って行った時は、それ以上はダメですよとか、そういうふうな場所も指定して置くべきだと思いますが、いずれにしてもそういうふうなことを万全な態勢を整えて、新しい中学校の子どもたちが、はつらつと通学できるような環境の整備をしていただきたいと思いますので、その辺について伺いたいと思います。

○議長 当局の答弁を求めます。

伊藤建設課長！

○建設課長 1点目の国県道の歩道の完成の見通しという点でございますが、事業主体は県でございます、県の方に強く要望はいたしておりますが、県の予算の状況については、来年度以降の分は示されておられませんので、先ほど言いましたように平成25年度以降、着工の予定ということで、完成についてはまだ見通しが分かっていない状態でございます。

○議長 橋本教育課長！

○教育課長 スクールゾーンの関係でございますけれども、スクールゾーンについては、関係機関と出来るだけ早めに協議をして決めて行きたいというふうに考えております。それから、スクールバスの乗降場所等についても、今後、学校と協議しながら進めて行きたいというふうに考えております。

それから、ご質問にありました徒歩での通学者数でございますけれども、主に市街地の部分から貝山の新三春中学校の方に登校という形になるかと思っております。現在、把握しております数は、雁木田橋から上がる生徒さん、それから大神宮橋から上がる生徒さん、それから新町橋から上がる生徒さん、この市街地から行く生徒が考えられるかと思っております。概ね現在、把握しておりますのは、雁木田橋から約90名、それから大神宮橋が40名、新町橋が60名、地区で分けておりますのでこれらについては概算というふうにお答えさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長 再々質問があればこれを許します。

(ありませんの声あり)

○議長 13番鈴木利一君！質問席に登壇願います。

第1の質問を許します。

○13番(鈴木利一君) 議長のお許しをいただきましたので、通告した点についてお伺い

したいと思います。

まず1番目なのですが、甲状腺による子どもの健康管理についてであります。1つ目に、今年度の当初予算で三春病院に甲状腺対応超音波検査機を購入し、長期被曝による甲状腺の異常の有無について、子どもから検査をすとしていました。これは、県と福島医大が実施している県民健康管理調査、その内の甲状腺の先行検査の順番を待っていたのでは、いつになるか分からないとして、三春病院の方に検査機器を備えて独自に行うというものでした。県で行う先行検査では、平成26年3月までに県内の検査を一巡させるとし、本年度については12市町村で実施するとしています。三春町の取り組みの現状、どのようになっているかお伺いしたいと思います。

2つ目に、県で行う県民健康管理調査、平成26年4月から本格検査を開始し、20歳までは2年ごと、それ以降については5年ごとに生涯に渡って検査を継続するとしております。また、ソ連のチェルノブイリ原発事故では甲状腺への影響が現れたのは、もっとも早くても事故から4年後だったということが明らかになっております。町で独自に機器を購入し、検査態勢を取るということは、県で行う検査周期より短期間での検査を望む声に答えてのものであると思いますが、町の検査計画を伺いたいと思います。

○議長 第1の質問に対する当局の答弁を求めます。

鈴木町長！

○町長 質問にお答えいたします。

県は18歳までの甲状腺の先行検査を平成23年度から25年度までの3年計画で取り組んでいます。県の当初計画では、三春町は25年度実施見込みであったため、24年度中に町立三春病院で実施できる体制を整備することとして、機器購入に向け事務を進めて参りました。

また、検査機器は医療専門機器であり、かつ県の検査受託可能な機能を備える必要があるため、使用者である指定管理者に意見を求め、実際の使用にかなう機種及び仕様について、指定管理者と県の調整を進めてきたところ、9月発注の段階となりました。発注後1、2ヶ月で納品となる見込みであります。小児の甲状腺検査については、超音波検査の画像を専門医師が読影判断するもので、特に0歳児など乳幼児の検査等は技術的に高い専門性が求められることから、検査に従事する医師については、機器の整備後に専門医師による指導研修を予定しております。

なお、8月に県から、三春町の先行検査を今年度中、1月から3月に前倒して実施するという、正式通知がありました。これにより、保健センターや学校・保育所・幼稚園等において、計画的に実施する予定であります。現在は、対象者の住民情報を県に提供する段階で、年内には対象者全員に通知される見通しであります。

今後の検査計画につきましては、県は今年度実施する先行検査の後、20歳までは2年に1回、20歳以後は5年に1回の本格検査を、生涯にわたり実施する予定であります。原発事故関連の健康管理は国・県が主体となって行うものですが、町としても機器整備等により検査体制を充実し、国・県と連携を図りながら、町民の皆様が安心して検査が受けられるよう努めて参ります。

以上であります。

○議長 再質問があればこれを許します。

鈴木利一君！

○13番（鈴木利一君） 今の答弁によりますと、県の検査にお任せをするという話の内容だったと思うんですが、町で独自に検査機器を購入するというその意義は、ちょっと見えてこないというふうに思うんですが、この辺についてお伺いしたいと思います。

○議長 当局の答弁を求めます。

影山保健福祉長！

○保健福祉課長 お答え申し上げます。

今の町が独自に行うということが見えないということなんですが、この前倒しして行うということで、同時に町独自でも検査態勢を整えておったのですが、なかなか三春病院での検査態勢とかですね、そういうものをずっと協議はして参りましたが、県の方のいま検査が回っている方に、指定管理者の大元である星病院の専門の先生を取られたりですね、多少検査の態勢にぶれがちょっとでてきているということで、協議はしておったのですが、そこに前倒しして県の検査が入るとということで、この検査、先行検査、先ほども言われましたが、生涯の甲状腺検査のベースとなる重要なものでありますので、極めて専門性が重要です。今の三春病院を見ていますと、態勢整備において、患者数も増えて、病院ともいろいろ相談したんですが、なかなかその星病院の先生の研修を三春病院で受けることも難しいというようなことでありましたので、県が1月から3月にやるというのであれば、その方を優先し、町独自で購入した機器は、その分で漏れた方のフォローとかですね、連携しているような態勢でやって行きたいというふうに今は考えております。

以上です。

○議長 再々質問があればこれを許します。

鈴木利一君！

○13番（鈴木利一君） 今の話ですと、県の検査漏れ等に対して三春病院独自でやるんだというようなニュアンスだったと思うんですが、予算的に580万円からの予算を組んでいる大変高額な機器ですよ、これをそれからいくと、年に1回か数回、使うだけかなというふうに思うんですが、非常に高額な検査機器で、そんな年に1回2回というふうなことで、本当に税金の無駄使いになっちゃうんじゃないかという心配があるわけですね。この辺について、高額医療機器のもっと充実した使い方、まして健康に対する不安解消についてもですね、本当に自分で持って、予定では2年とか5年とかと言われていますが、それ以上の検査をね、望みたいというふうに思いますがいかがでしょうか。

○議長 当局の答弁を求めます。

影山保健福祉長！

○保健福祉課長 今の漏れている人と言いますのは、まず一つ、先行検査の中で漏れた場合、同時ぐらいに県の検査と町の態勢が整いますので、まず漏れていると言うのは先行検査に漏れたようば場合に使うということです。それと、確かに高額な機械ですので、その使い方については、2年後からはですね、県の方も今のような検査態勢を取れないというような話を聞いております。そうすると当然、委託をするようになります、県の方は、町で出来る期間に、ですから当然、2年後からは本検査として3、100名くらいいるんですが、該当者が。もちろん、その検査にも有効利用しますし、その他、甲状腺だけの検査では確かに600万円もする機械もっていないですので、もちろん普通の指定管理者としてですね、エコーとしての機能も十分備えたものを、今選んで有効利用を図って行こうと考えているところでございます。

以上です。

○議長 第2の質問を許します。

○13番（鈴木利一君） 2番目の質問です。

第3期三春町障がい福祉計画についてであります。平成24年度以降は法整備によって法の改正により、サービスを利用する全ての障がい者に対して利用計画を策定することとなりました。今まで以上の相談支援態勢の充実を図る必要があります。その相談態勢は、今までは保健福祉課が対応してきましたが、障がい福祉計画では専門の相談機関の必要性が高くなっていることや、潜在的な利用希望者が多数いることがアンケートからも分かってきました。その窓口を社会福祉協議会や民間相談支援事業所等への事業委託を視野に入れて、早期の設置を目指すとしていますが、それには、相談支援員の育成が大切であります。その相談支援員の育成について、伺いたいと思います。

2つ目に、就労移行支援や就労継続支援A型事業には、企業や行政も含めた地域が一体となって就労場所の確保が重要であります。特に行政においては、自らが率先して就労の機会を確保し、その企業の理解を得ていく必要があります。障がい福祉計画では、町が役務業務を委託するなど、促進を図るとしていますが、現状と今後の予定をお伺いしたいと思います。

○議長 第2の質問に対する当局の答弁を求めます。

影山保健福祉課長！

○保健福祉課長 1点目のご問にお答え申し上げます。

障害者自立支援法や児童福祉法の一部改正により、平成24年4月に施行されたつなぎ法に基づき、障がい者福祉サービスを利用する全ての障がい者に対し、相談支援事業の強化や個別支援計画の策定が義務化されました。これにより、町は相談支援事業の実施方針として、基本的な相談支援業務を三春町社会福祉協議会に委託することを前提に進めております。委託準備としまして、平成24年4月1日から1年間、社会福祉協議会から町保健福祉課に専門職員の派遣を受け、町の障がい福祉担当職員と共に県の相談支援アドバイザーの指導助言を受けながら、窓口の各種相談業務に従事し、実務を現在、積んでおるところでございます。

更に、障がい者相談支援従事者養成研修を受講し、相談支援員の資格取得をする等、現在資質向上を図り、平成25年度委託に向けて育成に取り組んでおります。

なお、今後は町内の障がい福祉サービス事業所においても相談支援員の育成について働きかけて参りたいと考えております。

2点目の質問にお答えいたします。

三春町障がい福祉計画における町の役務業務の委託等の促進を図ることについては、4、5年前には健診の封入作業を委託した経緯はありましたが、現在は委託の実績はありません。今後は、各事業所の代表者が参加する障害者自立支援協議会において、受託可能な業務について意見等を聞きながら、また協議しながら委託の確保に向けて努力して参りたいと思います。

以上です。

○議長 再質問があればこれを許します。

鈴木利一君！

○13番（鈴木利一君） まず1点目の相談支援員の育成であります。非常に抽象的で、1名は福祉協議会の方から保健福祉課の方に研修に来ているという形で、その他について民間等については、まだまだ手が伸びていないという状況だと思うんですね。なかなか育成と

いうのは非常に大変だと思いますが、この福祉法でいけば、相談支援員というのが一番の窓口、受付みたいなどころになると思うんですが、ここの育成が一番本当に大事になってくると。ましては、一人ではだめだというのが明らかなわけですよ。もっともっと、こういった充実を図って行く必要がある。実際問題として、今町内には障がい者施設が三つほどありますが、現場で携っている人、こういった人達に有資格者がいるわけですよ、いま現在。こういった人達の資質の向上、そういったものについては具体的にどのようにお考えでしょうか。

○議長 当局の答弁を求めます。

影山保健福祉長！

○保健福祉課長 ご質問にお答え申し上げます。

今の段階ではですね、社会福祉協議会に25年度から専門職員としての資格を本年度に受講していただいて、態勢整備をするということを前提に進めておりますので、その作業所各位については、今後、協議しながら進めるようにしたいとは考えております。現在のところ、具体的にというのは考えておりませんが、可能であれば先ほど申し上げましたように、この相談支援員の研修の受講は、かなり競争率が激しくてですね、なかなか受講態勢が整っていない状況でございます。三春町もようやく1名、その資格取得に研修5日間あるわけですが、法は改正になっても、県の方で態勢がまだ取れていないということもありますので、育成に向けては、そういう機会をもっと県にも増やしていただくよう呼び掛けながら、各事業所でも育成の資格取得が取れるようには啓発していきたいと思っております。

○議長 再々質問があればこれを許します。

鈴木利一君！

○13番(鈴木利一君) 就労移行についてであります、町の役務業務、これ過去に若干あったという話しであります。とにかく、こういった障がい福祉計画、これを本当に実行性のあるものにするには、まず、行政が率先してやって行かなければならないと、そして企業等にその理解を深めて行く。そういったものが必要になってくると思っております、町としてですね、もっともっと本腰を入れて、こういった簡単な役務業務から発注をしてい行くと。そういったことが本当に必要になってくると思っております、町としてですね、新たな人を障がい者を簡単などころで受入れるということになると思うんですが、こういったまだまだ個所はあると思うんですよ、受入れる可能個所は。こういったことについて、もっと更なる取り組みをお願いしたいと思っております、来年度以降について、そういったもっともっと具体的な取り組みが考えられるのかどうか、お伺いしたいと思っております。

○議長 当局の答弁を求めます。

影山保健福祉長！

○保健福祉課長 今の質問にお答え申し上げます。

ここの質問に書いてあります、就労移行支援や就労継続支援A型事業とかありますが、こういう事業所を探してみても郡山市に6つ、就労移行ですと3つの事業所しかございません。田村市、三春町にはこの就労移行支援、就労継続支援A型については1つもございません。これは、なかなかハードルの高い指定事業でありまして、なかなか大都市でも作りにくい、職種にもよるんですが、三春町としては、今B型が3事業所ございますが、そこに以前、封入作業とかをお願いして雇用ですか、委託をしておりましたが、なかなか現在は個人情報の問題とかですね、いろいろ事務的にも難しい面もでてきている点は正直なところございます。

ただ、先ほど申し上げましたが、自立支援協議会では皆さん集まりますので、その中で本当に具体的にどういうものが出来るのかということは、障がい福祉計画にも書いてありますので、お聞きしながら可能な限り確保に努めるということで考えております。

以上でございます。

○議長 6番日下部三枝君！質問席に登壇願います。

第1の質問を許します。

○6番（日下部三枝君） それでは、議長のお許しをえましたので、先に通告しておきました事項についてお伺いいたします。

1件目、消費税増税前のある新聞社のアンケート調査時、賛成を表明した町長の増税についての考えと、実施される時のための対策についてお伺いします。

消費税増税が国会で決まり、別に決まっている増税や負担増もあいまって、家計への影響も少なくありません。生活防衛のために頭を悩ます中、増税前のある新聞社で行いました県内首長の増税に対する賛否のアンケート調査で、三春は賛成と表に出ておりました。内容を要約しますと、県内59市町村長の内、25人が賛成、20人が反対、どちらとも言えないが12人、回答なしが2人という内訳で、消費税増税は市町村の財源となる地方消費税の増税、地方交付税の増額に直結するので、賛成の市町村長は被災地の復興財源や社会保障制度の充実のため、増税を支持。一方、反対者は震災や原発事故で経済情勢が悪化する中、増税は復興の遅れを招くと主張しております。ただ、賛成、反対両方とも、増税は復興の支障となるという見方が目立ち、また、賛成の半数近くは住民の生活再建への影響を不安視している等です。この中で、賛成反対ともに住民の生活への影響を心配していますが、増税決定後出た新聞報道に、暮らしへの影響というものがああり、様々な家族のケースで増税の影響を試算したものが出ておりました。例えば、消費税増税の負担、その他の税負担、社会保障関連の負担を入れて、一体改革で増える家計負担、2016年時点の年間ベースで考えますと、夫婦とも40歳以上で夫だけの収入で年収が500万円と考えますと32万8千9百円の増、40歳未満の単身者、年収300万円では12万4千6百円の増、40歳以上の共働きですと44万8千7百円の増、75歳以上の夫婦二人で240万円の年収ですと13万6千8百円の増、75歳以上単身女性180万円の年収だと13万8千円の増となっております。

このような状況を考えてみますと、増税に賛成した町長の考えを伺いながら、また、2016年に10%との消費税率が実施された時、町民の負担増に対する町としての対策はどのようなことが考えられるかお伺いいたします。

○議長 第1の質問に対する当局の答弁を求めます。

鈴木町長！

○町長 1点目の質問にお答えいたします。

お質しの消費税増税前のアンケートにつきましては、県内59市町村長を対象に県内新聞社1社により実施されたものでございます。その内容につきましては、社会保障と税の一体改革に関するアンケートでありましたが、震災及び原発事故対応等の項目も併せたものでありました。現在の社会情勢を鑑みますと、少子高齢化の進展・景気の低迷等に加え、東日本大震災及び東京電力における原発事故への対応等と難題が山積しており、国の借金が増え続けていくことへの危機感があります。

また、社会保障費用も益々伸び続け、制度の継続も危ぶまれている状況にあります。このツケは、いずれ国民に回ってくることは避けられないことであると考えておりますが、それ

らについて、広く薄く負担をし、社会保障制度の継続・充実をはかっていく為には、消費税の増税もやむを得ないものであると考えたところであります。ただし、回答に際しましては「行財政改革も同時に進め、歳出削減に取り組むべきである」との意見を付しております。

町といたしましても、現在まで取り組んで参りました行財政改革を、より一層推進し、限られた財源の中、最少の経費で最大の効果が発揮できるよう、経常経費の抑制・合理化等を行うとともに、事業の重点配分を行いながら、町民の皆様の要望や政策課題に対してはスピード感を持って事業に取り組んでいく考えであります。

○議長 再質問があればこれを許します。

日下部三枝君！

○6番（日下部三枝君） もう国の方で増税は決まったことなので、今の町長の答弁でどういう考えだったかというのは、私の方も理解いたしました。ただ、これから2016年ですね、10%の消費税になった時に町民がどんなふうにこう考えるのかなと思う時があるんですね。おそらく、生活の切りつめを考えて行くのではないかなと思っています。そうすると、自分が一生懸命、切りつめていっている時に、本当にこのお金はどういうふうに使われて行くのかなという、そういう疑問を多分、持って来るのではないかなと思っています。それを考えると、やはり10%の消費税が上がった、その後、例えば社会保障の方に充てなければならない部分も、多分、国の方から来ると思いますが、それをやはり、町民の目に見えるような増税分の使い方というのを、やっぱり考えなくてはならないのではないかなと思います。こういうふうに、このお金は使われているんだな、というのが分かると、おそらく町民の方でも、自分たちの方にこれが回って来たという、そういう思いがあれば、そのところはなんとなく理解してもらえるのかなと思います。それから、先ほど町長の言葉の中に、経費削減とい話がありましたけれども、やはり無駄使い、それから自分の身近にいる人の態度とか、そういうのをうんと目に付くことがあるわけです。そうすると、例えばもしかしたら、役場の職員の皆さんのことについて、自分の今回の増税、これだけ上がったのに、あの態度は何だという、本当に小さなことなんですけれど、そういうふうなことに気が回って行くというか、そういうこともあると思いますので、やはりその辺のことを考慮しなければならぬのではないかなと思いますが、その辺はいかがお考えでしょうか。

○議長 当局の答弁を求めます。

鈴木町長！

○町長 今日本は世界一の借金国と言われております。ヨーロッパではギリシャに端を發してですね、スペインとかイタリアとか国家的に財政が破綻してEU圏内で大きな問題になっているわけですね。日本は世界一の借金国と言われながら、私はいずれそのツケは国民に回ってくるだろうと大きな心配をしておりますけれども、政治家は辞めれば責任はありません。これほどの借金をした責任はだれにあるのかと、責任を負う人が見えないですね。いずれは国民にツケが回るということを考えた時にですね、それと一方で加えまして、年金・医療・介護等ですね、社会保障全体が後数年で、原資が枯渇をしてしまうような報道がされているわけでありまして。そういうことを考えた時にですね、増税ではありますけれども、薄く広く財源を求めるこの消費税以外に道はないのではないかと、そういう思いをしているところでございます。

ただ、これが一律に8%、10%になるのか。生活必需品はあまり上げないのか。そういう具体的な議論というのは、まだされておられませんけれども、しかし、何らかの形でですね、私は生活必需品のような物はあまり上げないで低く抑えて、それ以外の物を上げていくと言

いますかね、そういう方法が取られるんであろうと、こういうふうに期待はしているところでもありますけれども、いずれにしましてもですね、私は町長という立場で町の財政を常に心配をしながら取り組んでいるわけでもありますけれども、町民の人達、個人個人がね、それによってどういうふうな生活を強られるかということろまでは、なかなか言及することは難しいだろうと、こういうふうに考えております。少なくとも町は、無駄をしないですね、しっかりと財政の改善を引き続きやって行くということに変わりありませんので、ご理解をいただきたいと思います。

○議長 再々質問があればこれを許します。

日下部三枝君！

○6番（日下部三枝君） 町長のこれからの増税について、本当に町民のことを考えて、一生懸命お話してくださったことは本当にありがたいと思いますけれども、今生活必需品は上げのように期待しているということなので、何かの機会には、是非その声を上げていただきたいと思います。もし、まだ決まっていないうらとすれば、いろんるところでその話しはしていただきたいと。

それから、先ほど住民に明確な増税分を示せるような算段をしてもらいたいという、その辺はいかがでしょうかと、ちょっと質問したんですけども、その辺についてはどのようにお考えでしょうか。もう一度お聞きします。

○議長 当局の答弁を求めます。

鈴木町長！

○町長 機会をとらえてですね、今申し上げたようなことは県・国の方にね、言っていきたいと思います。

それから、町民の生活の方についてね、町がそのためにどういうね、施策を講じるかということについては、現時点でねこうしますとかと、そういうことを言える状況にはないと、そう思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○議長 第2の質問を許します。

○6番（日下部三枝君） それでは2点目に移ります。

重点施策進捗状況の中から、訪ねてみたくなる地域づくりに関する取り組みについてお伺いいたします。春の桜、アジサイ植栽、秋のもみじと自然を素材にした観光地づくりに力が入っているようです。その他、歴史等の地域の資源を活かしたブランド化はこれからのようですが、通年観光を考える時、自然を活かしたのも大事ですが、三春ならではの1年を通しての普遍的なものを活かすことは、季節に関わらず人が寄ってくるという強みがあります。

また、自分の趣味で自分の興味を満たす所であればどこまででも行くという風潮もあり、そのようなものがあればブランド化に活用していくのかと思われます。三春といえば神社・仏閣・歴史と直ぐに思い浮かびますが、それ以外の地域の資源の活用も考えても良いのかなと思っております。

町としての地域の資源は、どのようなものを考えているか。具体的にどのような構想で検討していくのかお伺いします。

○議長 第2の質問に対する当局の答弁を求めます。

新野産業課長！

○産業課長 お答え申し上げます。

三春町の観光資源のうち、自然の素材には桜をはじめ、モミジ、カタクリ、アジサイなどが上げられます。滝桜をはじめ桜につきましては充実が図られ、秋を彩りますモミジの里づ

くりや城山公園でのアジサイの植樹が進められております。また、地域の皆さんの努力によりましてカタクリの里や花菖蒲園、蓮田、こういったものが整備され、これらはこういったものが、観光資源として大きく育っていく可能性があると考えております。歴史の素材では、やはり数多くの神社・仏閣、それからお祭り、盆踊りなどがあげられます。

また、歴史上の人物、こういった者も全国に発信できるものと考えられます。中でも歴史資源につきましては、特に観光PR、これが必要と考えております。神社やお寺の方々と観光客の受け入れ等でどういう方法が可能かについて、今後、協議を進めて参りたいと考えております。

そのような中で、町では街なかを散策します三春ウォーク、これを開催しております。神社やお寺をふんだんにコースに取り入れまして、城下町三春の良さを町外の方に実感していただくこととしております。

また、町内の陶芸・工芸家などの作品を集めた催しアーツ&クラフツ、これが行われておりまして、町内の蔵や旧家の店先、歴史を感じる建物を活用して、展示販売を行う市として期待が高まっております。観光地の魅力づくりに必要なものは、既存の資源を十分活用することと、将来の資源となる新しい素材を育てることとあります。そして、何よりそれらに取り組む地域の皆さんの力が最も大切だと考えおります。

また、これらの取り組みは、成果が表れるまである程度の時間がかかります。試行錯誤を繰り返しながら、取り組みを継続し、歴史の町にさらに磨きをかけて行きたいと考えております。

○議長 再質問があればこれを許します。

日下部三枝君！

○6番（日下部三枝君） 大きな意味での観光について、三春ウォークとかいろんな町内の陶芸家の人たちとか工芸家の人ですね、構想があるということが分かって、それを是非、大きくして充実して行ってもらいたいと思います。

それと、これはあくまでも個人的になんですけども、その三春ウォークでもその時にでも良いと思うんですけど、数回一般質問をしたことがあるんですけども、三春の神社仏閣にある和算の額ですね、算額。そういうものについての、やっぱり、掘り起こしとか。今、さくら湖の周辺の活用はできているんですけども、これはいろんな整備にかかる事業として、いろんな許可も必要かなと思いますけれども、さくら湖の湖面活用、現在もなんですけども、結構、さくら湖にはバス釣りに来ている人たちが結構多いので、やはりそういう、本当はバスはどのこの話もありますけれども、現在、結構あちこちの湖とか、そういう所でバス釣りというのが盛んに行われていますので、そういうものも逆手に取ると言いますか、そういうやり方もあるのかなと思っております。

あと、中町の蔵の活用、これも是非、課長は趣味として音楽にたけているので、そういうのも考えた蔵の活用等も考えてみたらどうなのかなと思っております。その辺について、課長の考えがありましたらお聞きしたいと思います。

○議長 当局の答弁を求めます。

新野産業課長！

○産業課長 今ほどご質問がありました、まず和算でございますが、議員ご指摘のとおり、三春町は江戸から明治にかけて、大変盛んな和算がございましたことは周知のとおりでございます。お話しがありました、例えば三春ウォークみたいところで神社、そういったとこ

ろが回れるようなコースも設定は十分、検討していきたいと思っております。後は、お寺さん、神社さんのご協議ということになります。当然、そういった絵馬等の保存保護の関係等もありますので、十分協議の上、検討させていただきたいと思えます。

それから、さくら湖の関係でございますが、お話しがありましたとおり、バス釣りについては、これまでいくつか大会も行われていたというふうに聞いております。現在の原発事故の関係もあって、なかなか継続がどうかというのがありますが、ダムの管理者、それから関係機関の皆様方ともご相談をしながら、活用についても検討を進めていければなと思っております。

それから、中町の蔵でございますが、今修繕工事に入っております。併せまして利活用方法につきまして、商工会の関係の皆様はじめ、いろんな方々のご相談をしながら進めさせていただいております。観光に資する活用ができるかどうか、検討に加えさせていただければと思っております。

以上です。

○議長 再々質問があればこれを許します。

(ありませんの声あり)

○議長 第3の質問を許します。

○6番(目下部三枝君) それでは3件目に移ります。

大津の男子中学生のいじめによる自殺問題の広がりについて、我が町教育委員会の見解と問題を受けての対応について、お伺いをいたします。

昨年起きた大津の男子中学生のいじめによる自殺問題が様々な領域に広がり、課題を投げかけていると思われます。報道の中から抜粋してみますと、昨年事件が起きてから、11月にいじめはあったが因果関係は判断できないと発表をしながらも、その間にアンケートを実施してみたりとか、その分析評価の結論を出していないので親の方の要望でありながら報告をしていないとか、そのことから、学校が事実と向き合う姿が見えずに不信感を持たれていること、それから恐喝されていたことから、県警が乗り出してきたり、それから、市側が当初いじめを苦にしていたことを判断できないと言っていたのを、途中で裁判の話が出たときに今度は認めてしまったとか、脅迫文が教育委員会に届いたり、脅迫めいたことが出てきたり、とにかく私たちが見ていて報道の中でしか実態は知ることはできませんが、印象として記者会見の様子、それから報道から受ける印象は事実と真摯に向き合う姿が見えない、そういうことが不信感を持たざるを得なくなってきたのではないかなと思っております。その現れとして、脅迫文とか脅迫行動に駆り立てたのではないかなと思っております。

また、提訴行動により裁判が行われたり、脅迫に端を発して県警が介入して、ついには文部省が支援組織を作って学校へ介入せざるを得ないところまで広がってきています。また、我が県の教育委員会も校内態勢の点検を通知したりしております。テレビを見てもこのような事件については、報道番組で実態を報道し、ワイドショーで興味を引き立てるような知らせ方をしているのですが、今回はニュース的な報道番組ではないような娯楽番組でも取り上げるような事態にあるようです。ここのように、教育番組等からは枠を離れて様々な領域に広がりを見せている事態を踏まえて、この問題について、我が町の教育委員会の見解と、この問題を受けての我が町の対応についてお伺いいたします。

○議長 第3の質問に対する当局の答弁を求めます。

遠藤教育長！

○教育長 お答えをいたします。

滋賀県大津市の中学校や教育委員会の問題が、本当にこれほど大きな広がりとなったのは、まず、中学生の命が失われていること、次に教育委員会と学校が自殺の要因の一つはいじめであると認識していなかったこと、そして事件後の生徒アンケートを、より慎重に扱わなかったこと等が原因と思っております。三春町教育委員会といたしましては、「どの子どもにも、どの学校においても、いじめは起こりうる」あるいは「いじめを認知して早期に対応するのが良い学校である」という基本認識を再確認しているところでございます。

町教育委員会の各小中学校への働きかけにつきましては、6月に町内小中学校の生徒指導担当者に、いじめ問題や児童生徒の自殺防止に関する研修を実施しております。また、各校長に対しましては、月例の学校経営懇談会におきまして、いじめ問題への遺漏なき対応について繰り返し確認をしているところであります。

次に、いじめへの学校の対応について説明をいたします。現在、町内の全ての学校では、年に数回のアンケート等でいじめ問題の把握に努めております。そして、いじめを把握した時には組織で対応し、いじめた児童生徒といじめられた児童生徒、両者の保護者に速やかに連絡し、家庭訪問や面談によって家庭と連携して解決を図っております。教育委員会では、この取り組みをしっかりと継続するよう折に触れて助言しております。

更には、警察との連携も図っております。田村警察署との間には学校警察連絡協議会が組織されており、必要な時には速やかに警察と学校と教育委員会が連携する体制を整えております。

最後に各学校では、いじめ問題等の児童生徒の問題行動を未然に防止する教育活動を最も重視しております。道徳教育におきましては、いじめは人間として絶対に許されない行為である、という意識を徹底して指導しております。また、教育活動全体を通して、思いやりや生命の尊重、相手や自分を大切にすることを育むよう、豊かな体験活動を重視した教育課程を編成しております。いじめが発生しない方策と、いじめが発生したらという両面から万全の体制を今後とも整えて参りたいと思っております。

以上でございます。

○議長 再質問があればこれを許します。

日下部三枝君！

○6番（日下部三枝君） 今回の教育長の答弁で、三春町の教育委員会の考えというのが分かりました。なかでも、どの子どもにもいじめということを最初に認知しているというか、それが無いものということではなくて、あるというふうに考えるということ、これはやっぱり大事なことかなと思っております。いろんな警察、その他のところとの連携もきちんと取れているので、私は三春の町の教育は安泰かなと思いますが、確認ということで、今三春町のいじめ問題というものについての現状というのは、どんなふうになっているのかだけお聞きしたいと思います。

○議長 当局の答弁を求めます。

遠藤教育長！

○教育長 お答えをいたします。

まず、昨年度1年間にいじめが発生したと認知しておりますのは2件ということになっております。いずれも学校の努力によりまして解決をみております。

議員さんの質問等がありましたので、学校に再度、問い合わせをいたしましたところ、2校、2件につきまして、現在いじめがあったと報告がございました。1件につきましては、解消をしているということでもあります。もう1件につきましては、指導中ということですが、内容的には悪口ということでもあります。軽微なものとして安易には考えられませんが、いじめというのは三層構造になっておりまして、いじめられる側といじめる側、これではいじめは発展していかないんですね、その周りにですね、はやし立てる者が出てくるといじめになります。その周りにですね、見て見ぬふりをする者がいると更に拡大していきます。そういう三層構造を教員は理解しておりますので、なるべく早期に解決するように努めているところでございます。以上です。

○議長 再々質問があればこれを許します。
(ありませんの声あり)

○議長 第4の質問を許します。

○6番(日下部三枝君) それでは4件目に移ります。

公共施設建設や修繕工事等の終了後の検査についてお伺いします。

今後、新三春中学校の建設をはじめとし、公共施設の整備が多くなってくように見受けられます。特に新三春中学校は12月に完成を目指しておりますが、後で問題が出ないように検査は万全に行わなければならないと思います。今までもきちんとした検査態勢で望んでいるとは思いますが、10年以上も前の検査結果が今頃になって影響を及ぼしているようなことが話題になったものがありますので、老婆心ながらの質問でもあり、建設時の検査態勢等は、その道に通じてないとあまり関心を持たない分野でもあることから、これからある町の工事に際し、この際、三春町の工事の検査体制の現状についてお伺いしておきたいと思っております。

○議長 第4の質問に対する当局の答弁を求めます。

伊藤建設課長!

○建設課長 工事の検査体制であります。三春町工事請負契約約款に基づいて、監督員を置き、設計図書に基づく工程の管理、工事の施工状況及び工事材料の試験・検査等を行っております。

また、今回の新三春中学校建設工事につきましては、工事の品質確保の観点から、財団法人ふくしま市町村建設支援機構へ工事監理業務を委託しております。ふくしま市町村建設支援機構では、工程及び施工状況の管理等を行っております。工事竣工後は、町長が定めた職員、主に建設課長が検査員として、請負者立会いの上、設計図書に定めるところにより、工事の完成を確認するための検査を行っておりますが、工事施工中の管理及び検査等が最も重要でありますので、今後も外部委託等も検討し、工事が適正に施工されるように進めて参りたいと思っております。

以上でございます。

○議長 再質問があればこれを許します。
(ありませんの声あり)

○議長 これにて一般質問を打ち切ります。

……………・散会宣言……………

○議長 以上で本日の日程はすべて終了いたしましたので散会といたします。

傍聴者の皆さんも含めて、ご苦勞様でございました。

(午後2時17分)

平成24年9月14日（金曜日）

1 出席議員は次のとおりである。

1番 陰山 丈夫	2番 渡辺 泰譽	3番 影山 初吉
4番 佐藤 弘	5番 本田 忠良	6番 日下部 三枝
7番 佐藤 一八	8番 渡辺 正久	9番 三瓶 文博
10番 佐久間 正俊	11番 小林 鶴夫	12番 橋本 善次
13番 鈴木 利一	14番 渡邊 勝雄	15番 儀同 公治
16番 本多 一安		

2 欠席議員は次のとおりである。

なし

3 職務のため議場に出席した者の職氏名は次のとおりである。

事務局長 橋本 清文 書記 近内 信二

4 地方自治法第121条の規定により説明のため議場に出席した者の職氏名は次のとおりである。

町 長	鈴木 義孝
副町長	橋本 國春

総務課長	佐久間 収	財務課長	村上 正義
住民課長	工藤 浩之	税務課長	佐久間 幸久
保健福祉課長	影山 敏夫	産業課長	新野 徳秋
建設課長	伊藤 朗	会計管理者兼 会計室長	村田 浩憲
企業局長	増子 伸一		

教育委員会委員長	武地 優子	教育長	遠藤 真弘
教育次長兼教育課長	橋本 良孝	生涯学習課長	遠藤 弘子

農業委員会会長	大石田 紘一
---------	--------

代表監査委員	野口 邦彦
--------	-------

5 議事日程は次のとおりである。

議事日程 平成24年9月14日（金曜日） 午後2時開会

第1 付託議案の委員長報告

第2 議案の審議

議案第56号 東日本大震災農業生産対策交付金堆肥センター復旧工事請負変更契約について

議案第57号 新三春中学校生徒用机・椅子他購入契約について

議案第58号 新三春中学校スクールバス（中型バス）車両購入契約について

議案第59号 新三春中学校スクールバス（マイクロバス）車両購入契約について

- 議案第60号 三春町暴力団排除条例の制定について
- 議案第61号 三春町立小学校及び中学校条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第62号 風致地区内における建築等の規制に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第63号 三春町防災会議条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第64号 三春町災害対策本部条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第65号 田村市と三春町との間の園児及び小学校学齢児童並びに中学校学齢生徒の教育事務の委託に関する規約の一部を改正する規約の制定について
- 議案第66号 教育委員会委員の任命につき議会の同意を求めることについて
- 議案第67号 教育委員会委員の任命につき議会の同意を求めることについて
- 議案第68号 人権擁護委員候補者の推薦につき議会の意見を求めることについて
- 議案第69号 平成24年度三春町一般会計補正予算(第2号)について
- 議案第70号 平成24年度三春町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について
- 議案第71号 平成24年度三春町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について
- 議案第72号 平成24年度三春町介護保険特別会計補正予算(第1号)について
- 議案第73号 平成24年度三春町放射性物質対策特別会計補正予算(第2号)について
- 議案第74号 平成23年度三春町一般会計歳入歳出決算認定について
- 議案第75号 平成23年度三春町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 議案第76号 平成23年度三春町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
- 議案第77号 平成23年度三春町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 議案第78号 平成23年度三春町町営バス事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 議案第79号 平成23年度三春町放射性物質対策特別会計歳入歳出決算認定について
- 議案第80号 平成23年度三春町水道事業会計未処分利益剰余金の処分及び歳入歳出決算認定について
- 議案第81号 平成23年度三春町下水道事業等会計歳入歳出決算認定について
- 議案第82号 平成23年度三春町宅地造成事業会計資本剰余金の処分及び歳入歳出決算認定について
- 議案第83号 平成23年度三春町病院事業会計歳入歳出決算認定について

閉 会

6 会議次第は次のとおりである。

(開会 午後2時)

……………・開 会 宣 言 ・……………

○議長 それでは、ただいまより本日の会議を開きます。

……………・付託議案の委員長報告 ・……………

○議長 日程第1により、付託議案の委員長報告を求めます。

総務常任委員長！

○総務常任委員長 総務常任委員会が本定例会において、会議規則の規定により付託を受けた議案について、その審査の経過と結果について報告いたします。

なお、本委員会は、9月6日に日程設定を行い、9月10日、11日、12日、14日の4日間、現地調査を含め第1委員会室において開会いたしました。

議案第60号、「三春町暴力団排除条例の制定について」。

総務課長の出席を求め、本案に関する詳細な説明を受けました。本案は、暴力団の排除を推進することにより、町民の安全で平穏な生活の確保と社会経済活動の健全な発展に寄与することを目的として、本条例を制定するものであり、審査いたしました結果、全員一致原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第63号、「三春町防災会議条例の一部を改正する条例の制定について」。

総務課長の出席を求め、本案に関する詳細な説明を受けました。本案は、東日本大震災の教訓・課題を受けた防災対策の見直しにより、災害対策基本法の一部が改正され、防災会議の所掌事務の追加と防災会議構成委員の変更が行われたことから、本条例の一部を改正するものであり、審査いたしました結果、全員一致原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第64号、「三春町災害対策本部条例の一部を改正する条例の制定について」。

総務課長の出席を求め、本案に関する詳細な説明を受けました。本案は、東日本大震災の教訓・課題を受けた防災対策の見直しにより、災害対策基本法の一部が改正されとことに伴い災害対策本部設置に関する引用条項が改められたこと、更に災害発生時の緊急事態に即応できるよう災害対策本部の部制を現在の町組織と同様の体制へと改めるため、本条例の一部を改正するものであり、審査いたしました結果、全員一致原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第69号、「平成24年度三春町一般会計補正予算（第2号）について」。

財務課長の出席を求め、補正予算（第2号）全般について、詳細な説明を受けました。所管に係る事項のうち、今回の補正予算は、歳入においては地方交付税、繰越金、雑入等の追加と、臨時財政対策債等の減額であります。歳出においては、財産管理費、企画費、常備消防費、予備費等の追加と公債費の減額であります。慎重に審査いたしました結果、所管に係る事項について、全員一致原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第74号、「平成23年度三春町一般会計歳入歳出決算認定について」。

関係する課長等の出席を求め、決算全般にわたり、決算書、主要な施策の成果を説明する書類、事務報告書に基づき詳細な説明を受けました。慎重に審査いたしました結果、所管にかかる事項について、予算は適正に執行されており、全員一致決算は認定すべきものと決しました。

以上、総務常任委員会の報告といたします。

○議長 経済建設常任委員長！

○**経済建設常任委員長** 経済建設常任委員会が本定例会において付託を受けた議案について、その審査の経過と結果について報告いたします。

なお、本委員会は9月6日に日程設定を行い10日、11日、12日、14日の4日間、現地調査も含め第4委員会室において開会いたしました。

議案第56号、「東日本大震災農業生産対策交付金堆肥センター復旧工事請負変更契約について」。

産業課長の出席を求め本案に関する詳細な説明を受けました。本案は掘削土の含水比が想定より高く盛土材料として適さないことからセメント混和等の土質安定処理を施す必要があるため請負金額を変更しようとするものです。慎重に審査しました結果、全員一致原案のとおり可決するものと決しました。

議案第62号、「風致地区内における建築等の規制に関する条例の一部を改正する条例の制定について」。

建設課長の出席を求め本案に関する詳細な説明を受けました。風致地区内における建築等の規制に係る条例の制定に関する基準を定める政令が改正され、10ヘクタール以上の風致地区内の行為許可権が県知事から町長へ移譲されたことから本条例の一部を改正するものです。慎重に審査した結果、全員一致原案のとおり可決するものと決しました。

議案第69号、「平成24年度三春町一般会計補正予算（第2号）について」。

産業課長、建設課長の出席を求め本案に対する詳細な説明を受けました。歳入においては地方交付税、土木費国庫補助金、土木債等の追加であり、歳出においては農用地利用管理費、道路維持費、道路整備費、都市計画総務費が主なものであります。慎重に審査した結果、所管に係る事項について、全員一致原案のとおり可決するものと決しました。

議案第74号、「平成23年度三春町一般会計歳入歳出決算認定について」。

産業課長、建設課長の出席を求め所管に係る事項について決算書、事務報告書に基づき詳細な説明を受けました。慎重に審査した結果、所管に係る事項について、全員一致認定するものと決しました。

議案第80号、「平成23年度三春町水道事業会計未処分利益剰余金の処分及び歳入歳出決算認定について」。

企業局長の出席を求め詳細な説明を受けました。未処分利益剰余金の処分は地方公営企業法に基づくものであります。慎重に審査した結果、予算は適正に執行されており、全員一致原案のとおり可決及び認定するものと決しました。

議案第81号、「平成23年度三春町下水道事業等会計歳入歳出決算認定について」。

企業局長の出席を求め詳細な説明を受けました。慎重に審査した結果、予算は適正に執行されており、全員一致認定するものと決しました。

議案第82号、「平成23年度三春町宅地造成事業会計資本剰余金の処分及び歳入歳出決算認定について」。

企業局長の出席を求め詳細な説明を受けました。資本剰余金の処分は地方公営企業法に基づくものであります。慎重に審査した結果、予算は適正に執行されており、全員一致原案のとおり可決及び認定するものと決しました。

以上、経済建設常任委員会の報告といたします。

○**議長** 文教厚生常任委員長！

○**文教厚生常任委員長** 9月定例会において文教厚生常任委員会が付託を受けた議案について、その審査の経過と結果を報告いたします。

本委員会は、9月6日に日程設定を行い、9月10日、11日、12日の3日間にわたり、第3委員会室において開会いたしました。

議案第57号、「新三春中学校生徒用机・椅子他購入契約について」。

議案第58号、「新三春中学校スクールバス（中型バス）車両購入契約について」。

議案第59号、「新三春中学校スクールバス（マイクロバス）車両購入契約について」。

議案第61号、「三春町立小学校及び中学校条例の一部を改正する条例の制定について」。

議案第65号、「田村市と三春町との間の園児及び小学校学齢児童並びに中学校学齢生徒の教育事務の委託に関する規約の一部を改正する規約の制定について」。

以上5案について教育長、教育次長の出席を求め、本案に対する詳細な説明を受けました。議案第57号、議案第58号、議案第59号については、新三春中学校の生徒用机・椅子他購入契約、スクールバス（中型バス）、スクールバス（マイクロバス）の車両購入契約について議会の議決を求めるものであります。議案第61号、議案第65号については、新三春中学校建設により関係条例及び規約の一部を改正するものであります。慎重に審査いたしました結果、全員一致原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第69号、「平成24年度三春町一般会計補正予算(第2号)について」。

教育長、教育次長、生涯学習課長、保健福祉課長、住民課長等の出席を求め、所管に係る部分について、それぞれ詳細な説明を受けました。議案第69号のうち教育課所管に係る分については、小中学校の債務負担行為の補正のほか、歳入については、認定こども園事業に係る県補助金の増額であり、歳出の主なものは、民生費の保育費、教育費の事務局費及び小中学校、幼稚園管理費の増額に係るものであります。生涯学習課所管に係る分の歳入については、教育費雑入の増額であり、歳出については、民生費児童館費及び教育費社会教育費を増額するものであります。保健福祉課所管に係る分の歳入については、国庫支出金の衛生費国庫補助金の増額であり、歳出については、総務管理費諸費、民生費社会福祉費及び衛生費保健衛生費を増額するものであります。住民課所管に係る分について、歳出については、保健衛生費環境対策費の増額に係るものであります。以上、慎重に審査いたしました結果、全員一致原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第70号、「平成24年度三春町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について」。

議案第71号、「平成24年度三春町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について」。

議案第72号、「平成24年度三春町介護保険特別会計補正予算(第1号)について」。

以上3案について、保健福祉課長、健康づくりグループ長、福祉グループ長、国保医療グループ長の出席を求め、本案に対する詳細な説明を受けました。議案第70号の国民健康保険特別会計に係る歳入については、療養給付金交付金の増額であり、歳出については、保険給付費高額療養諸費、諸支出金償還金及び還付加算金の増額及び介護給付金を減額するものであります。議案第71号の後期高齢者医療特別会計に係る歳入については、諸収入償還金及び還付加算金の増額であり、歳出については、諸支出金償還金及び還付加算金を増額するものであります。議案第72号の介護保険特別会計に係る歳入については、国庫補助金、支払基金交付金、県補助金、繰越金の増額であり、歳出の主なものは、徴収費、介護予防サービス諸費、高額介護サービス諸費、諸支出金償還金及び還付加算金を増額するものであります。以上、慎重に審査いたしました結果、全員一致原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第74号、「平成23年度三春町一般会計歳入歳出決算認定について」。

教育長、教育次長、生涯学習課長、保健福祉課長、住民課長等の出席を求め、所管に係る

決算全般について、議案書、事務報告書及び歳入歳出決算書に基づき、それぞれ詳細な説明を受けました。慎重に審査いたしました結果、所管に係る事項について、全員一致決算は認定すべきものと決しました。

議案第75号、「平成23年度三春町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について」。

議案第76号、「平成23年度三春町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について」。

議案第77号、「平成23年度三春町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について」。

議案第83号、「平成23年度三春町病院事業会計歳入歳出決算認定について」。

以上4案について、保健福祉課長、健康づくりグループ長、福祉グループ長、国保医療グループ長の出席を求め、各特別会計と三春町病院事業会計について、議案書、事務報告書及び歳入歳出決算書に基づき、本案に対する詳細な説明を受けました。慎重に審査いたしました結果、全員一致決算は認定すべきものと決しました。

議案第78号、「平成23年度三春町町営バス事業特別会計歳入歳出決算認定について」。

住民課長の出席を求め、町営バス事業の決算全般について、議案書、事務報告書及び歳入歳出決算書に基づき、詳細な説明を受けました。慎重に審査いたしました結果、全員一致決算は認定すべきものと決しました。

以上、文教厚生常任委員会の報告といたします。

○議長　なお、議案第66号、67号、68号、73号及び79号の5議案につきましては、委員会に付託せず全体会で行いましたので申し添えます。

…………… 議案の審議 ……………

○議長　日程第2により、議案の審議を行います。

議案第56号、「東日本大震災農業生産対策交付金堆肥センター復旧工事請負変更契約について」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長　質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長　討論なしと認めます。

これより議案第56号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第57号、「新三春中学校生徒用机・椅子他購入契約について」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長　質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長　討論なしと認めます。

これより議案第57号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第58号、「新三春中学校スクールバス(中型バス)車両購入契約について」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第58号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第59号、「新三春中学校スクールバス(マイクロバス)車両購入契約について」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第59号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第60号、「三春町暴力団排除条例の制定について」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第60号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第61号、「三春町立小学校及び中学校条例の一部を改正する条例の制定について」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第61号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第62号、「風致地区内における建築等の規制に関する条例の一部を改正する条例の制定について」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第62号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第63号、「三春町防災会議条例の一部を改正する条例の制定について」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第63号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。
議案第64号、「三春町災害対策本部条例の一部を改正する条例の制定について」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第64号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第65号、「田村市と三春町との間の園児及び小学校学齢児童並びに中学校学齢生徒の教育事務の委託に関する規約の一部を改正する規約の制定について」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第65号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第66号、「教育委員会委員の任命につき議会の同意を求めることについて」を議題といたします。

(議長の声あり)

○遠藤教育長 本議案は私の一身上に関する議案ですので退席を許可願います。

○議長 退場を許可いたします。

(遠藤教育長が退場)

○議長 これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

お諮りをいたします。本案は人事案件でありますので、討論を省略して採決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

これより議案第66号を採決いたします。

本案は原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり遠藤真弘氏を教育委員会委員に任命することに同意することに決定をいたしました。

○議長 遠藤氏の入場を許可いたします。

(遠藤教育長が入場)

○議長 ただいま、教育委員会委員の任命に同意をいたしました遠藤真弘氏より、ここでご挨拶をいただきたいと思います。

○遠藤教育長 ただいまは、議会の同意をいただきまして誠にありがとうございます。

これまでの1年半の経験を活かし、ほか4名の教育委員の皆様と協力しながら、三春町の教育の振興に努めて参ります。よろしくお願いをいたします。

○議長 議案第67号、「教育委員会委員の任命につき議会の同意を求めることについて」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

お諮りをいたします。本案は人事案件でありますので、討論を省略して採決することにご異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

これより議案第67号を採決いたします。

本案は原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり宗像俊樹氏を教育委員会委員に選任することに同意することに決定いたしました。

○議長 宗像俊樹氏の出席を求めていますので、出席を許します。

○議長 ただいま、教育委員会委員の任命に同意をいたしました宗像俊樹氏より、ここでご挨拶をいただきたいと思います。

○宗像俊樹 ただいま、議会において同意され、10月より教育委員となります宗像俊樹と申します。保護者の立場から教育委員の皆様と一緒に三春町の教育を推進して行きたいと思っております。どうかよろしくお願いをいたします。

○議長 議案第68号、「人権擁護委員候補者の推薦につき議会の意見を求めることについて」を議題といたします。

これより質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

お諮りをいたします。本案は人事案件でありますので、討論を省略して採決することにご異議あ

りませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

これより議案第68号を採決いたします。

本案は原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり七海浩一氏を人権擁護委員候補者として推薦することに同意することに決定をいたしました。

議案第69号、「平成24年度三春町一般会計補正予算(第2号)について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第69号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第70号、「平成24年度三春町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第70号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第71号、「平成24年度三春町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第71号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第72号、「平成24年度三春町介護保険特別会計補正予算(第1号)について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第72号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第73号、「平成24年度三春町放射性物質対策特別会計補正予算(第2号)について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第73号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第74号、「平成23年度三春町一般会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

なお、決算認定議案の質疑の際は、款、項、目、ページを示してから質疑を願います。

歳入全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第74号を採決いたします。

本案は原案のとおり認定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

議案第75号、「平成23年度三春町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第75号を採決いたします。

本案は原案のとおり認定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

議案第76号、「平成23年度三春町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第76号を採決いたします。

本案は原案のとおり認定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

議案第77号、「平成23年度三春町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第77号を採決いたします。

本案は原案のとおり認定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

議案第78号、「平成23年度三春町町営バス事業特別会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第78号を採決いたします。

本案は原案のとおり認定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

議案第79号、「平成23年度三春町放射性物質対策特別会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

歳入歳出全般について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第79号を採決いたします。

本案は原案のとおり認定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

議案第80号、「平成23年度三春町水道事業会計未処分利益剰余金の処分及び歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

剰余金計算書及び処分計算書(案)について質疑を許します。

(なしの声あり)

収益的収入支出について質疑を許します。

(なしの声あり)

資本的収入支出について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第80号を採決いたします。

本案は原案のとおり可決及び認定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決及び認定されました。

議案第81号、「平成23年度三春町下水道事業等会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

収益的収入支出について質疑を許します。

(なしの声あり)

資本的収入支出について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第81号を採決いたします。

本案は原案のとおり認定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

議案第82号、「平成23年度三春町宅地造成事業会計資本剰余金の処分及び歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

剰余金計算書及び処分計算書(案)について質疑を許します。

(なしの声あり)

収益的収入支出について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第82号を採決いたします。

本案は原案のとおり可決及び認定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決及び認定されました。

議案第83号、「平成23年度三春町病院事業会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

収益的収入支出について質疑を許します。

(なしの声あり)

○議長 質疑なしと認めます。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声あり)

○議長 討論なしと認めます。

これより議案第83号を採決いたします。

本案は原案のとおり認定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○議長 ただいま、総務、経済建設、文教厚生各常任委員会委員長、並びに議会運営委員会委員長より所管に係る事項について、会議規則第71条の規定により、閉会中の審査、調査について、別紙のとおり申し出がありましたので、閉会中の審査、調査に付することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、各常任委員会委員長並びに議会運営委員会委員長より申し出のとおり所管に係る事項について、閉会中の審査、調査に付することに決定をいたしました。

○議長 ただいま、桜川河川改修推進、三春町町立学校再編等調査の各特別委員会委員長より、所管に係る事項について、会議規則第71条の規定により閉会中の審査、調査について、別紙のとおり申し出がありましたので、閉会中の審査、調査に付することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 異議なしと認めます。

よって、各特別委員会の委員長より申し出のとおり所管に係る事項について閉会中の審査、調査に付することに決定をいたしました。

……………町長挨拶……………

○議長 本定例会の会議に付された事件は全て終了いたしました。ここで町長より発言があればこれを許します。

鈴木町長！

○町長 長丁場の9月定例会、議員の皆さん方には精力的に議案の審査をしていただきまして、誠にありがとうございました。そして、ただいまは、全議案、可決、同意、認定をしていただきました。これからは、私ども執行者としてしっかりとその任務を果たして行くことに尽きると思っております。今後も重要課題、山積しておりますので議会の皆さん方のご支援やご助言をよろしくお願いを申し上げて挨拶といたします。

ありがとうございました。

..... 閉 会 宣 言

○議長 通常の9月議会は、涼しい秋風が吹く中で行われていたような記憶がありますがけれども、今年、それこそ想定外でありまして大変暑い中で長丁場にわたっての皆さん方のご審議、心から議長として感謝を申し上げます。

これをもって、平成24年三春町議会9月定例会を閉会といたします。

大変ご苦勞様でございました。

大変長い間ご苦勞様でございました。

(閉会 午後2時40分)

上記、会議の経過を記載して相違ないことを証するためここに署名する。

平成24年9月14日

福島県田村郡三春町議会

議 長

署 名 議 員

署 名 議 員

議案審議結果一覧表

議案番号	件名	採決	議決の状況
議案第56号	東日本大震災農業生産対策交付金堆肥センター復旧工事請負変更契約について	全 員	原案可決
議案第57号	新三春中学校生徒用机・椅子他購入契約について	全 員	原案可決
議案第58号	新三春中学校スクールバス（中型バス）車両購入契約について	全 員	原案可決
議案第59号	新三春中学校スクールバス（マイクロバス）車両購入契約について	全 員	原案可決
議案第60号	三春町暴力団排除条例の制定について	全 員	原案可決
議案第61号	三春町立小学校及び中学校条例の一部を改正する条例の制定について	全 員	原案可決
議案第62号	風致地区内における建築等の規制に関する条例の一部を改正する条例の制定について	全 員	原案可決
議案第63号	三春町防災会議条例の一部を改正する条例の制定について	全 員	原案可決
議案第64号	三春町災害対策本部条例の一部を改正する条例の制定について	全 員	原案可決
議案第65号	田村市と三春町との間の園児及び小学校学齢児童並びに中学校学齢生徒の教育事務の委託に関する規約の一部を改正する規約の制定について	全 員	原案可決
議案第66号	教育委員会委員の任命につき議会の同意を求めることについて	全 員	原案同意
議案第67号	教育委員会委員の任命につき議会の同意を求めることについて	全 員	原案同意
議案第68号	人権擁護委員候補者の推薦につき議会の意見を求めることについて	全 員	原案同意
議案第69号	平成24年度三春町一般会計補正予算（第2号）について	全 員	原案可決
議案第70号	平成24年度三春町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について	全 員	原案可決
議案第71号	平成24年度三春町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について	全 員	原案可決
議案第72号	平成24年度三春町介護保険特別会計補正予算（第1号）について	全 員	原案可決

議案第73号	平成24年度三春町放射性物質対策特別会計補正予算(第2号)について	全 員	原案可決
議案第74号	平成23年度三春町一般会計歳入歳出決算認定について	全 員	原案認定
議案第75号	平成23年度三春町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	全 員	原案認定
議案第76号	平成23年度三春町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	全 員	原案認定
議案第77号	平成23年度三春町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	全 員	原案認定
議案第78号	平成23年度三春町町営バス事業特別会計歳入歳出決算認定について	全 員	原案認定
議案第79号	平成23年度三春町放射性物質対策特別会計歳入歳出決算認定について	全 員	原案認定
議案第80号	平成23年度三春町水道事業会計未処分利益剰余金の処分及び歳入歳出決算認定について	全 員	原案可決 ・認定
議案第81号	平成23年度三春町下水道事業等会計歳入歳出決算認定について	全 員	原案認定
議案第82号	平成23年度三春町宅地造成事業会計資本剰余金の処分及び歳入歳出決算認定について	全 員	原案可決 ・認定
議案第83号	平成23年度三春町病院事業会計歳入歳出決算認定について	全 員	原案認定